福岡市西区

原深町遺跡

（別冊）

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第71集

福岡市教育委員会
No.
埋蔵文化財センター

1982

福岡市教育委員会

福岡市西区

原深町遺跡

（別冊）

飯原小学校建設地内遺跡の発掘調査報告書

1982

福岡市教育委員会

例　言

1．本書は，『原深町(はらふかまち)遺跡』（福岡市埋蔵文化財調査報告書　第71集）の別冊である。

2．原深町遺跡は，福岡市西区大字原字深町にあり，飯原小学校建設に先立って，1979年8月21日から12月20日にかけて発掘調査を実施した。

3．本書は，原深町遺跡より出土した土器観察表と木製品の樹種同定結果を収録している。

4．出土土器観察表は，本文冊に記載した 272点のすべてにおいて観察し，一覧表とした。表の作製にあたっては，花畑照子氏と溝口博子氏のご協力をえました。

5．木製品の樹種同定については，九州大学農学部の松本昺先生と林弘也先生に依頼していたもので，両先生のご尽力により今回収録できた。記して感謝の意を表します。

6．表紙題字は，牧野資一氏よりいただきました。

福岡市西区　原深町遺跡

別　冊　目　次

I　出土土器……3

ページ

Tab. 1　出土土器観察表(1)……3
Tab. 2　出土土器観察表(2)……4
Tab. 3　出土土器観察表(3)……5
Tab. 4　出土土器観察表(4)……6
Tab. 5　出土土器観察表(5)……7
Tab. 6　出土土器観察表(6)……8
Tab. 7　出土土器観察表(7)……9
Tab. 8　出土土器観察表(8)……10
Tab. 9　出土土器観察表(9)……11
Tab. 10　出土土器観察表(10)……12
Tab. 11　出土土器観察表(11)……13
Tab. 12　出土土器観察表(12)……14
Tab. 13　出土土器観察表(13)……15
Tab. 14　出土土器観察表(14)……16

ページ

Tab. 15　出土土器観察表(15)……17
Tab. 16　出土土器観察表(16)……18
Tab. 17　出土土器観察表(17)……19
Tab. 18　出土土器観察表(18)……20
Tab. 19　出土土器観察表(19)……21
Tab. 20　出土土器観察表(20)……22
Tab. 21　出土土器観察表(21)……23
Tab. 22　出土土器観察表(22)……24
Tab. 23　出土土器観察表(23)……25
Tab. 24　出土土器観察表(24)……26
Tab. 25　出土土器観察表(25)……27
Tab. 26　出土土器観察表(26)……28
Tab. 27　出土土器観察表(27)……29
Tab. 28　出土土器観察表(28)……30

II　原深町遺跡から出土した木製遺物の樹種同定……31

九州大学農学部　林　弘也
松本　勗

ページ

Tab. 1　出土木製品一覧表……32

顕微鏡写真

PL. 1　W1　W2　W3
PL. 2　W4　W5　W6
PL. 3　W7　W8　W9
PL. 4　W10　W11　W12
PL. 5　W13　W14　W15
PL. 6　W16　W17　W18
PL. 7　W19　W20　W21
PL. 8　W22　W23　W24
PL. 9　W25　W26　W27
PL. 10　W28　W29　W30
PL. 11　W31　W32　W33
PL. 12　W34　W35　W36
PL. 13　W37

Ⅰ　出土土器

本文冊では，土器の実測図と写真のみで，個別土器の観察については，紙数や時間的制約から記載できなかった。ようやく一年後にその責を果すことになるが，遅延したことを大いに反省している。

—凡　例—　1．番号欄の1段目は土器番号，2段目は登録番号，3段目は挿図番号，4段目は図版番号である。

2．遺構・器種の欄は，1段目が発掘区，2段目は遺構，3段目は器種である。器種は甕形土器を甕，壺形土器を壺，鉢形土器を鉢，高坏形土器を高坏，器台形土器を器台のように大別し，略した。

3．法量欄は，口＝口径　体＝体部最大径　底＝底径（高台径）　高＝器高である。

4．備考欄は，胎＝胎土　焼＝焼成　色＝色調　他＝その他である。

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
1 153 F 42 —	V　区 大　溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は胴部反転部から内傾してのびる。 口縁端上面は内傾する。	断面三角形の刻み目は口縁端部より，わずかに下に貼り付けられる。 内外面ともナデ調整。	胎. 粗 焼. 普通 色. 茶褐色 他. 全体に磨耗
2 288 F 42 P 70	Ⅳ　区 大　溝 甕	口. 体. 底. 高.	外傾する口縁部はやや凹凸がめだつ。 口縁端は丸みがある。	断面三角形の刻み目は高く口縁端部より，下に貼り付け。 内外面ともナデ調整。	胎. 粗 焼. 普通 色. 灰黒色 他.
3 289 F 42 P 70	Ⅳ　区 大　溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部はわずかに外傾し，口縁端は先細くなり，丸みをもつ。	刻み目突帯は三角形で口縁部より下に貼り付け。 内外面ともナデ調整。	胎. 粗 焼. 普通 色. 外：灰黒色 内：灰茶色 他.
4 157 F 42 —	V　区 大　溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は直線的に外傾する。 口縁端内面は内傾する。 刻み目突帯はぶ厚いつくりをなす。	刻み目突帯は口縁端に接して下向きに付けられているが，横ナデで段がついている。	胎. 粗 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
5 287 F 42 P 70	V　区 大　溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は内湾ぎみに外傾する。 刻み目突帯は断面三角形で口縁端に接して下向きに貼り付けられる。	刻み目は斜行し幅広い。 外面は横方向のナデ調整。 内面はへら(?)ナデ調整。	胎. 粗：1㎜大の砂粒 焼. 良好 色. 外：黒色 内：灰茶色 他.
6 301 F 42 —	Ⅲ　区 1 号 溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部の小破片。 口縁端は内面に丸く突出している。	刻み目突帯は断面蒲鉾形であるが，うすいつくりをなす。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 良好 色. 茶色 他.

Tab. 1　出土土器観察表(1)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
7 285 F 42 P 70	V 区 大 溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部はわずかに外傾し，口縁端内面は，緩やかに内傾している。	刻み目突帯は断面三角形に近く，刻み目は細く深い。 内面は横ナデ，外面はナデ調整。	胎. 粗：小砂粒 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：茶色 他.
8 293 F 42 P 70	III 区 1 号溝 甕	口. 体. 底. 高.	凹凸のある口縁部は，わずかに外傾する。 口縁端部は丸みがある。	刻み目は左下りに斜行しており本遺跡ではこの1点のみである。 突出部は横ナデ調整。	胎. 粗：1㎜大の砂粒 焼. 普通 色. 黄茶色 他.
9 283 F 42 P 70	IV 区 大 溝 甕	口. 体. 底. 高.	器壁の厚い口縁部は外傾し，口縁端上面は平坦面をつくる。	刻み目突帯は断面三角形できわめてうすいつくり。 内外面ともナデ調整	胎. 粗 焼. 良好 色. 暗茶褐色 他.
10 292 F 42 P 70	IV 区 大 溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部の小破片。 外傾する口縁部の内面は凹状に窪む。	刻み目突帯は下向きに貼り付けられ，刻み目は深い。	胎. 粗：小砂粒 焼. 良好 色. 外：茶褐色 内：淡茶色 他.
11 304 F 42 P 70	I 区 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部はわずかに外傾する。 口縁部の器壁は厚く，端部は丸く尖っている。	断面三角形の突帯は，口縁端に接しているが，下向きに貼り付けられている。	胎. 粗：砂粒少ない 焼. 良好 色. 茶色 他.
12 291 F 42 P 70	VII 区 7 号溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は内湾ぎみにのび口縁端内面は内傾している。	刻み目空帯は断面三角形で小さい。 内面はナデ調整。	胎. 粗：1㎜大の砂粒 焼. 良好 色. 暗茶褐色 他.
13 290 F 42 P 70	V 区 5 号溝	口. 体. 底. 高.	内傾する口縁部に断面三角形の刻み目突帯が付く。	刻み目は斜行し，するどい。 外面はナデ調整。	胎. 粗：2㎜の砂粒 焼. 普通 色. 灰黒色 他.
14 282 F 42 P 70	III 区 甕	口. 体. 底. 高.	断面蒲鉾形の刻み目突帯はうすく，上端に接して貼り付けている。	内面は横ナデ調整。 外面は横の条痕が見られる。	胎. 粗 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：淡灰茶色 他.
15 286 F 42 P 70	IV 区 大 溝 甕	口. 体. 底. 高.	断面蒲鉾形の刻み目突帯は，内傾する口縁部の上端に接して付けられる。	内面は横ナデ後に丁寧なナデ調整。 刻み目はわりに深い。 外面はナデ調整。	胎. 粗 焼. 普通 色. 茶褐色 他.
16 284 F 42 P 70	III 区 1号溝東 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は直線的にのび，口端部は，わずかに内傾している。 刻み目突帯は小さく蒲鉾形をなす。	内面はナデ調整。 外面は横条痕が見られる。	胎. 粗：砂粒少ない 焼. 普通 色. 茶褐色 他.

Tab. 2　出土土器観察表(2)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
17 303 F42 P70	V区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	内傾ぎみにのびる口縁部上面は平坦面をなす。 刻み目突帯は三角形で口縁上端と同じ高さをなす。	突帯の刻み目は浅く，やや間隔がある。	胎. 粗：小砂粒 焼. 普通 色. 茶褐色 他.
18 295 F42 P70	(V区) 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は直立し，上端は平坦面をなす。 刻み目突端は，板状にうすく，口縁上端に接して貼り付けている。	突帯の刻み目は浅いが，幅広い。 口縁部は横ナデ調整。	胎. 粗：1㎜大の砂粒 焼. 普通 色. 淡茶色 他.
19 294 F42 P70	(V区) 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は外傾し，端部は丸くおさめている。 刻み目突帯は，断面蒲鉾形をなす。	突帯の刻み目は深い。 外面はナデ調整。	胎. 粗：砂粒少ない 焼. 良好 色. 淡茶色 他.
20 305 F42 P70	I区 ピット 甕	口. 体. 底. 高.	刻み目突帯は口縁上端に接して貼り付けられている。 突帯は断面三角形で逆L字形をなす。 口縁部は，ほぼ直立する。	突帯部は横ナデ調整。 刻み目は浅い。	胎. 粗：砂粒少ない 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
21 302 F42 P70	Ⅳ区 5号溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は，わずかに外傾する。 刻み目突帯は，口縁上端と同じ高さに貼りつけている。 突帯の厚さはうすい。	口縁内面を丸く内傾させているために，口縁断面は丸くなっている。 刻み目は深くない。	胎. 粗 焼. 普通 色. 茶色 他. 全体が磨耗
22 296 F42 P70	Ⅳ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	胴部突帯部である。 刻み目のつけ方で上下を判断した。 刻み目突帯の断面は蒲鉾形をなす。	内面と突帯下部はナデ調整。 突帯より上部は横の条痕(?)か。 刻み目は深い。	胎. 粗：砂粒 焼. 普通 色. 茶褐色 他. 突帯下部は黒褐色
23 100 F42 P70	Ⅵ区 2号溝 甕	口. 体. 底. 11.2 高.	底部くびれ部に刻み目突帯を巡らしている。 底部はハ字形に外開き，上げ底をなす。	突帯部は刻み目後に横ナデ調整を加える。 突帯下部は左上りのナデ，底部端は横ナデ，上げ底部はナデ調整である。	胎. 粗：砂粒多い 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
24 201 F43 P71	Ⅵ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	如意形口縁は上方に小さく突出する特徴をもつ。 胴部の張りは小さいようである。 刻み目は口縁端部の下部のみにつけられ，小さい。	口縁部は内外面ともに横ナデ調整。 胴部はナデ調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通 色. 灰茶褐色 他.
25 85 F43 —	Ⅳ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部は短かいが，屈曲は強い。 刻み目は口縁端部の上部には見られない。 刻み目は垂直ではなく斜めにつけられている。	口縁部は横ナデ調整。 屈曲部より下方は内外面ともにナデ調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通 色. 外：黒茶色 内：明茶色 他.
26 233 F43 P71	V区 5号溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部の外反は小さく，短かい。 口縁端部は下方に折りかえしている。 口縁端部は丸くなっており，その中央に刻み目を施す。	内，外面ともにハケ目後に横ナデ調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通 色. 茶褐色 他.

Tab. 3　出土土器観察表(3)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
27 158 F 43 —	Ⅳ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	如意形口縁の小破片。 口縁端部は上方に小さく突出している。 刻み目は口縁端部の下部のみに見られる。	内面はナデ調整。 外面は縦のハケ目調整。 刻み目はハケ目後につけられている。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通 色. 茶黒色 他.
28 84 F 43 —	Ⅳ区 3号溝東 甕	口. 体. 底. 高.	如意形口縁の小破片。 屈曲はあまり強くない。 刻み目は口縁端部の下部のみに見られる。	内面は横ハケ目後に横ナデ調整。 外面はナデ調整。	胎. 粗：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
29 155 F 43 —	Ⅳ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	口縁部の小砂片のため口径不正確。 如意形口縁の外面は湾曲のため小さな凹凸がある。 刻み目は口縁部の上部には見られない。	内面はナデ調整。 外面は縦のナデ調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通 色. 赤茶色 他.
30 88 F 43 P 71	Ⅵ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	底部より胴部は直線的にのびる。 口縁部は外反しているが屈曲部はうすい器壁をなす。 口縁端部は上方に小さく突出している。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面は縦ナデ調整。 胴部外面は斜めと縦のハケ目調整である。	胎. 粗：砂粒多い 焼. 良好 色. 黒褐色 他.
31 176 F 43 —	Ⅴ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	胴部は底部より外湾しながらのび，上部で垂直に近く立つ。 口縁部は直線的に外反する。	口縁端部は横ナデ調整のままで刻み目はない。 口縁部内面は細かい横ハケ目，胴部外面は斜めの細かいハケ目調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：黒灰色 他.
32 83 F 43 —	Ⅳ区 3号溝 甕	口. 体. 底. 高.	胴部の外傾大きく，口縁部は緩やかに外湾している。 口縁端部の刻み目は細く，幅広くつけられている。	口縁端部は横ナデ調整。 口縁部の内外面は粗いハケ目調整。 外面には煤が付着している。	胎. 粗：砂粒多い 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：茶褐色 他.
33 187 F 43 —	Ⅵ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	胴部は張りはなく，直線的である。 口縁部は大きく湾曲し如意形をなす。	刻み目は口縁端部の下端のみに見られるが鋭利である。 口縁内面は横ハケ目。外面は縦ハケ目調整。	胎. 粗：1㎜大の砂粒 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：暗茶色 他.
34 200 F 43 —	Ⅵ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	如意形口縁は短かく引き出されている。 胴部の張りは小さい。	口縁端部の刻み目は下端のみに見られる。 口縁内面は横ハケ目をナデ消している。 外面は縦ハケ目をナデ消す。	胎. 粗：砂粒多い 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：茶色 他.
35 91 F 44 —	Ⅳ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	張りの小さい胴部に如意形口縁がつく。	刻み目は口縁部下端にのみつけられる。 口縁部は横ナデ調整。 胴部は内外面ともナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 外：黒茶褐色 内：茶褐色 他.
36 73 F 44 P 71	Ⅵ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	胴部上半部は，ほぼ直立する。 口縁下に沈線1条を巡らしている。 刻み目は口縁部下端にのみつけられるが，小さな刻み目である。	外面の調整は，口縁部の横ナデ，直下の縦ハケ目，胴部の斜行ハケ目，沈線という順である。	胎. 粗：砂粒多い 焼. 良好 色. 茶褐色 他.

Tab. 4　出土土器観察表(4)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
37 97 F 44 P 71	Ⅵ区 大溝 甕	口. 14.2 体. 底. 高.	口縁部を欠くが如意形をなすのであろう。 口縁下に1条の刻み目突帯を巡らしている。	突帯部は横ナデ，突帯の上下は縦ハケ目調整。 口縁部内面は横ハケ目。 胴部内面はナデ調整。	胎. 2㎜大の砂粒 焼. 良好 色. 暗褐色 他.
38 98 F 44 P 71	Ⅵ区 大溝 甕	口. 体. 底. 高.	胴突帯部の小破片。 2条の突帯は断面三角形で直立する刻み目を施す。	突帯部は横ナデ，下部は縦のハケ目調整。内面は凹凸がめだつ。	胎. 粗：2㎜大の砂粒 焼. 良好 色. 暗褐色 他.
39 119 F 44 —	Ⅴ区 大溝 甕	口. 24.4 体. 底. 高.	胴部上半はやや内湾し，口縁部は緩やかに外湾する。 口縁端は外側に丸く突出し，刻み目を施す。 口縁下に沈線を巡らす。	外面は細かい縦ハケ目の後に沈線を巡らす。 内面は口縁部が横ハケで下部はナデ調整である。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 外：灰茶色 内：黒茶色 他.
40 78 F 44 —	Ⅵ区 大溝 甕	口. 23.8 体. 底. 高.	底部から胴部は内湾しながらのびる。 口縁外端部には断面三角形の粘土を貼り付け，上面に平坦面をつくる。	口縁下に断面三角形突帯を1条巡らす。 口縁部と突帯には刻み目を施す。 外面は縦ハケ目調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
41 108 F 44 P 71	Ⅵ区 大溝 甕	口. 29.4 体. 底. 高.	胴上半は直線的に内傾し，逆L字形の口縁部をつくる。 口縁外端には直立する刻み目を施す。	口縁内側は横ナデで凹状をなす。 胴部外面は縦のナデ調整。	胎. 密：2㎜大の砂粒 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
42 101 F 44 P 71	Ⅵ区 大溝 甕	口. 26.8 体. 底. 高.	胴部最大径は中位よりやや上にある。 胴上半部はわずかに内傾し，逆L字形の口縁部がつく。 口縁下に断面三角形の突帯。	逆L字形の口縁外端は下方に垂れぎみで，端部に刻み目を施す。 胴部外面は縦のハケ目調整。	胎. 粗：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
43 107 F 45 P 72	Ⅵ区 大溝 甕	口. 24.8 体. 底. 高.	逆L字形の口縁部で，内傾する。 口縁部内端は丸みがある。 胴部最大径よりも口径は大きい。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面は左上りのナデ，外面は縦ハケ目後にナデ調整。 外面は砂粒露出する。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
44 32 F 45 —	Ⅲ区 1号溝 甕	口. 26.6 体. 底. 高.	口縁部は逆L字形で，上面の内傾は小さく水平に近い。 口縁部内端は横ナデされ凹状となる。 口径は胴部最大径より小さい。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面は縦のナデ，内面はナデ調整。 内外面ともに砂粒露出。	胎. 砂粒を含む 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
45 236 F 45 —	Ⅵ区 大溝 甕	口. 30.4 体. 底. 高.	胴部上半は直線的に内傾し，逆L字形の口縁部がつく。 口縁上面の内傾は大きい。	口縁部は横ナデ調整。 他は磨耗し不明。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通：やや軟質 色. 茶色 他.
46 106 F 45 P 72	Ⅵ区 大溝 甕	口. 32.0 体. 底. 高.	胴部上半は緩やかに内湾してのび，逆L字形の口縁部がつく。 口縁部内端は丸く小さく突出する。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面はナデ調整，外面は縦ハケ目を横ナデ消し。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.

Tab. 5　出土土器観察表(5)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
47 110 F45 P72	Ⅵ区 大溝 甕	口. 34.6 体. 底. 高.	胴部の器壁はうすいが，逆L字形口縁部は肥厚している。 口縁部内端は稜がつく。	口縁直下は強く横ナデされ凹状となる。 胴部外面は細かい縦ハケ目後にナデ調整を加える。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 淡茶色 他.
48 211 F45 —	Ⅴ区 大溝 甕	口. 体. 底. 7.2 高.	平底の底部で，中央部がわずかに窪む。 胴部へは外湾して移行する。	胴部外面は縦ハケ目，内面はナデ調整。 底部外縁は横ナデ調整。	胎. 砂粒多い 焼. 良好 色. 外：灰茶色 内：灰黒色 他.
49 28 F45 —	Ⅳ区 大溝 甕	口. 体. 底. 6.8 高.	上げ底の底部から内湾して胴部がのびる。	胴部外面は縦のハケ目，内面は砂粒露出し不明。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 外：赤茶色 内：灰茶色 他. 本文冊のⅤ区は誤り
50 136 F45 P72	Ⅴ区 大溝 甕	口. 体. 底. 7.0 高.	上げ底は深く，胴部への移行部はよくしまっている。	胴部外面は縦のハケ目，内面はナデ調整。 上げ底は指押え。	胎. 小砂粒を含む 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
51 44 F45 P72	Ⅰ区 南壁砂上 甕	口. 体. 底. 9.4 高.	底部は厚いつくりで，上げ底は浅い。 胴部への移行部はよくしまる。	上げ底は指押え。	胎. 1㎜大の砂粒多い 焼. 良好 色. 茶色 他.
52 45 F45 P72	Ⅰ区 ピット 甕	口. 体. 底. 7.8 高.	底部の小破片。 上げ底は1.5cmと深い。 胴接合部より剝離している。	外面は縦のハケ目にナデ消し。 上げ底は指押え。	胎. 小砂粒を含む 焼. 良好 色. 淡茶色 他.
53 220 F45 —	Ⅴ区 大溝 甕	口. 体. 底. 7.4 高.	上げ底の底部は，直立し，胴部への移行部はくびれていない。	内外面ともナデ調整。 全体的に磨耗している。	胎. 1㎜大の砂粒多い 焼. 良好 色. 茶色 他.
54 254 F45 P72	Ⅵ区 大溝 甕	口. 体. 底. 8.2 高.	上げ底は 3.5cmと深く，台状のつくりをなす。 胴部へは緩やかに内湾しながらのびる。	底部端から内部へかけては横ナデ調整。 くびれ部は縦のハケ目調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
55 27 F45 P72	Ⅲ区 甕	口. 体. 底. 7.4 高.	底部は厚さ4 cmあり，きわめて厚いつくりをなす。 底部端は面取りし，中央部はわずかに窪む。	胴部は縦のハケ目調整。 くびれ部は横ナデ，底面部はナデ調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：黒茶褐色 他.
56 259 F45 P72	Ⅵ区 大溝 甑	口. 体. 底. 7.4 高.	平底から胴部は緩やかに外湾しながらのびる。 底部は焼成前に穿孔されている。	胴部外面は縦ハケ目，内面はナデ調整。	胎. 小砂粒を含む 焼. 良好 色. 外：茶色 内：茶褐色 他,

Tab. 6　出土土器観察表(6)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
57 114 F46 P73	Ⅵ区 大溝 甕	口. 26.0 体. 底. 高.	張りのない胴部に逆L字形の口縁部がつく。 口縁内端には稜がつく。 口縁直下には断面三角形の突帯が巡る。	胴部内面はナデ調整であるが凹凸がめだつ。 口縁部から突帯部は横ナデ，突帯下は縦のハケ目調整。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
58 112 F46 P73	Ⅵ区 大溝 甕	口. 28.4 体. 底. 高.	口縁部の小破片。 逆L字形の口縁部内端は小さく突出する。口縁上面は，平坦で内傾する。 口縁下の断面三角形突帯はするどい。	口縁部は横ナデ調整。 内面はナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
59 104 F46 P73	Ⅵ区 大溝 甕	口. 32.2 体. 底. 高.	胴部上半は内湾し，やや厚めの逆L字形口縁がつく。 口径より胴部最大径が大きく倒卵形の胴部となる。 口縁下に断面三角形突帯を巡らす。	突帯の上下は縦のハケ目，口縁上面は横ナデ消し。 内面はナデ調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 良好 色. 淡茶色 他.
60 129 F46 P73	Ⅴ区 大溝 甕	口. 37.6 体. 底. 高.	胴部上半は直線的にのび内傾する。 口縁内端の突出はなく，外端は丸みがなく，断面方形をなす。 口縁下に断面三角形の突帯を巡らす。	突帯の上下は縦ハケ目後に横ナデを加える。 口縁外端は斜行する細い刻み目を施す。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
61 113 F46 P73	Ⅵ区 大溝 甕	口. 41.4 体. 底. 高.	直線的に内傾する胴部に断面長方形の粘土帯を貼り付けて逆L字形の口縁部をつくる。 口縁外端は刻み目を施し，直下に断面三角形突帯を巡らす。	口縁外端の調整は，横ナデ，沈線，刻み目の順である。 突帯は小さいことから，2条となるか？	胎. 密 焼. 堅緻 色. 淡茶色 他.
62 237 F46 P73	Ⅴ区 大溝 甕	口. 42.0 体. 底. 高.	胴部に張りはなく，口径は胴部最大径より大きい。 口縁下に断面三角形の突帯を2条巡らす。	口縁外端は61と同じような刻み目を施す。 突帯の上下は縦のハケ目後に横ナデ調整を加える。 内面はナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 外：灰茶色 内：灰茶褐色 他.
63 111 F46 P73	Ⅵ区 大溝 甕	口. 42.8 体. 底. 高.	胴部上半は外湾しながらのび，口径と胴部最大径とは，ほぼ等しい。 口縁外端は丸みがあり，内端はするどい稜をなす。	口縁直下に断面三角形突帯が2条巡る。 突帯上下は縦ハケ目後に横ナデ消し。	胎. 密：砂粒少 焼. 普通 色. 淡茶色 他.
64 299 F47 P74	Ⅵ区 大溝 壺	口. 体. 底. 高.	壺の肩部で，頸部の一部がのこる。 頸部への移行は明瞭な段をなさない。	頸部との境に2条の沈線を巡らし，3段（?）以上の羽状文を施す。 外面は横ナデ調整，内面は砂粒露出する。	胎. 密：1㎜大の砂粒 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
65 118 F47 P74	Ⅴ区 大溝 壺	口. 体. 20.8 底. 高.	球状をなす胴部の破片。	羽状文はするどく2段以上になろう。 胴部外面は細かい横の磨き。 内面上部は強く横ナデ，下部は，右上りのナデ調整。	胎. 1㎜大の砂粒多い 焼. 普通 色. 外：茶色 内：茶黒色 他.
66 154 F47 P74	Ⅴ区 大溝 壺	口. 体. 底. 高.	66～69は文様帯の小破片。 羽状文で無軸である。		胎. 小砂粒を含む 焼. 普通 色. 茶色 他.

Tab. 7　出土土器観察表(7)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
67 117 F47 —	V区 大溝 壺	口. 体. 底. 高.	羽状文はよく整っていない。 有軸である。	内面はナデ調整。	胎. 粗：2㎜大の砂粒多い 焼. 普通 色. 淡茶色 他.
68 300 F47 P74	VI区 大溝 壺	口. 体. 底. 高.	斜格子文で右下りの線が後に施す。 斜格子の上には2条の沈線を巡らす。	内面はナデ調整。	胎. 密：1㎜大の砂粒 焼. 普通 色. 他.
69 298 F47 P74	VI区 大溝 壺	口. 体. 底. 高.	断面蒲鉾状の小さな突帯を巡らし，その上下に貝殻縁で施文する。	内面はナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
70 238 F47 —	II区 ピット 壺	口. 12.0 体. 底. 高.	口頸部のみであるが，球形の胴部がつくのであろう。 頸部は直立し，口縁部は水平近くに小さく引き出す。 頸部下端に断面三角形突帯を巡らす。	内面は粗いハケ目をナデ消す。 外面は縦のハケ目。 口縁部と突帯部は横ナデ調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通 色. 茶色 他.
71 206 F47 —	V区 大溝 壺	口. 18.4 体. 底. 高.	口縁部は朝顔状に開くが，頸部はやや直立ぎみ。 口縁端内面に断面三角形の粘土を貼り付け平坦な口縁上面をつくる。	口縁部外面と上坦部はハケ目を横ナデ消し。 内面は細かい横のヘラ磨き。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
72 23 F47 —	III区 壺	口. 20.2 体. 底. 高.	口縁部の小破片。 平坦な口縁部の両端は丸みをもつ。外端部には刻み目なし。	内外面とも横ナデ調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
73 128 F47 —	V区 大溝 壺	口. 23.8 体. 底. 高.	頸部は直立ぎみにのび上部で急に外湾する。 上面に粘土帯を貼り付け平坦部をつくる。	口縁外端部に直立する刻み目を施す。 外面はナデ調整。 口縁部と内面は横ナデで丁寧な調整を施している。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
74 208 F47 —	V区 大溝 壺	口. 28.8 体. 底. 高.	口径の大きい広口壺口縁部である。 口縁部は頸部より大きく外湾し，端部内面に断面三角形の粘土を貼り付け，上面は外傾する。	口縁部は横ナデ調整。 頸部内外面はナデ調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 普通 色. 茶色 他.
75 203 F48 —	VI区 大溝 甕	口. 23.6 体. 底. 高.	く字形の口縁部は，わずかに内湾しながらのびる。 口縁端部は外傾し，上面はやや凹状となる。 屈曲部内面は丸みがある。	口縁部内面は横ハケ目を横ナデ消し。 胴部内面はヘラ削り，屈曲部内面はナデ上げ。	胎. 密：小砂粒多い 焼. 良好 色. 外：茶褐色 内：茶色 他.
76 212 F48 —	V区 大溝 甕	口. 28.0 体. 底. 高.	口縁部はく字形に外反する。 口縁内端は上方に小さく突出し，上面は外傾する。 屈曲部内面は丸みを欠く。	胴部内面は右上りのヘラ削り，外面はハケ目調整。 口縁部内面は横ハケ目後に横ナデを加える。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他. 口縁部黒斑

Tab. 8　出土土器観察表(8)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
77 267 F 48 P 74	Ⅵ区 大溝 甕	口. 23.6 体. 28.6 底. 高. 34.8	倒卵形の胴部にく字形の口縁部がつく。 底部は小さな丸底をなす。 口縁部はわずかに外湾しながらのびロ端上面は凹状をなす。	胴部外面のハケ目は数回くりかえしている。 内面は右上りのヘラ削りで全体的に丁寧である。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他. 外面に煤付着
78 268 F 49 P 75	Ⅴ区 2号堰 甕	口. 21.6 体. 27.8 底. 高.	胴部は長球形で頸部はよくしまる。 口縁部は外湾ぎみにのびる。 屈曲部は内面に稜をもつ。	内外面とも細かいハケ目。 胴部外面は細かい叩きの後にハケ目を加える。 口縁部はハケ目を横ナデ消し。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶褐色 他.
79 79 F 49 —	Ⅵ区 大溝 甕	口. 16.4 体. 底. 高.	く字形に外反する口縁部は外湾しながらのび，端部は先細くなる。 屈曲部内面は稜をなす。	内面は横ハケ目で，屈曲部より約2㎝下よりヘラ削り。 胴部外面は左下りの細かい叩き。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 暗茶褐色 他.
80 81 F 49 —	Ⅵ区 大溝 甕	口. 15.2 体. 底. 高.	器壁のうすいつくりで，頸部はよくしまる。 口縁部は微妙に湾曲しながらのび，口端部は上方に小さく突出している。	口縁部内外面はハケ目を横ナデ消し。 胴部外面は細かい叩き。 内面はヘラ削り，後に縦のナデを加える。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
81 272 F 49 P 75	Ⅵ区 大溝 甕	口. 14.8 体. 22.4 底. 高. 25.2	球状の胴部にやや尖りぎみの底部がつく。 口縁部は，頸部から直立してのび上部で大きく外反する。 口縁端部は上方に小さく突出する。	胴部上半部には粗い叩き痕があり，その上を細かいハケ目調整。 下部は削り風に条痕が見られる。 胴部内面はハケ目調整。 口縁部は細かいハケ目を横ナデ消し。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
82 74 F 50 —	Ⅴ区 2号溝 甕	口. 17.0 体. 底. 高.	く字形口縁部は屈曲部内面に稜をもって外反する。 口縁中位でさらに湾曲し，口縁端部は上方に小さく突出する。	胴部内面は屈曲部より右上りのヘラ削り，外面は縦のハケ目調整。 口縁部は横ナデ調整。	胎. 粗：小砂粒多い 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
83 144 F 50 —	Ⅴ区 2号溝 甕	口. 17.2 体. 底. 高.	口縁部は直線的に外反し，口端部を丸くおさめる。 屈曲部内面は丸みがあり，肥厚している。	口縁部内外面は横ナデ調整。 胴部内面は右上りのヘラ削り。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
84 87 F 50 —	Ⅴ区 2号溝 甕	口. 13.6 体. 底. 高.	く字形口縁部は外湾しながらのび，端部は外傾する。屈曲部外面は横ナデされよくしまる。	屈曲部のやや下より右方向（時計まわり）のヘラ削り。 口縁部は内外面ともに横ナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
85 198 F 50 —	Ⅴ区 2号溝 甕	口. 15.6 体. 底. 高.	口縁部は外湾しながらのび，く字形口縁をなす。	口縁部内外面は横ナデ調整。 胴部内面は屈曲部のやや下より右上りのヘラ削り。	胎. 密：小砂粒少ない 焼. 良好 色. 茶色 他.
86 93 F 50 P 76	Ⅴ区 2号溝 甕	口. 14.8 体. 底. 高.	口縁部は直線的に外反し，口端部は水平に近い平坦面をつくる。	口縁部は横ナデ調整，屈曲部内面はナデ上げ。 胴部内面は屈曲部のやや下より右上りのヘラ削り。	胎. 密：小砂粒少ない 焼. 良好 色. 淡茶色 他.

Tab. 9　出土土器観察表(9)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
87 131 F 50 —	(V) 大溝 甕	口. 17.2 体. 底. 高.	口縁部は外湾しながらのびるが屈曲が大きい。 口端部は上方へ小さく突出し，外傾する。	屈曲部内面は丸みがありナデ調整。 胴部内面はヘラ削りを加える。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
88 76 F 50 —	VI 区 2 号溝 甕	口. 17.4 体. 底. 高.	胴部上半は直線的に内傾し，よくしまった頸部となる。 口縁部は外湾しながらのび，口端部は外傾する。	口縁外端は下方に小さく突出する。 胴部外面は細かい横のハケ目調整，内面は屈曲部の約2cm下より右上りのヘラ削り。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
89 90 F 50 —	VI 区 2 号溝 甕	口. 16.0 体. 底. 高.	88と同じように，頸部はよくしまる。 外傾する口端部は平坦面をつくらず，丸みがある。	胴部内面はヘラ削り。 胴部上半には櫛歯による波状文を巡らす。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
90 46 F 50 —	II 区 1 号溝 甕	口. 13.8 体. 底. 高.	口縁部はわずかに外湾しながらのびる。	屈曲部内面は丸く，直下からヘラ削りされる。 胴部外面はナデ，口縁部は横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 外：茶色 内：灰茶色 他.
91 308 F 50 —	III 区 1 号溝 甕	口. 17.0 体. 底. 高.	口縁部は直線的に外反し，口端部は先細くおさめている。内面はわずかにへこむ。	胴部外面は縦のハケ目，内面はヘラ削りで，方向は統一性がない。 屈曲部内面はナデ上げ。	胎. 密：砂粒 焼. 良好 色. 外：赤茶色 内：黒色 他.
92 257 F 50 P 76	V 区 大溝 甕	口. 15.6 体. 20.8 底. 高.	球形の胴部にく字形口縁部がつく。 屈曲部内面は丸みがある。 全体的にうす手のつくりをなす。	胴部内面はヘラ削り。 外面は下半部が縦のハケ目，上半部は横ハケ目で櫛歯の波状文を巡らす。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶褐色 他. 下半部に煤付着
93 65 F 50 —	V 区 大溝 甕	口. 18.8 体. 底. 高.	外湾してのびる口縁部は短く，口縁端部は上方に小さく突出する。 胴部上半に櫛歯の波状文を巡らす。	屈曲部下は指押え後にナデを加える。ヘラ削りは屈曲部より約 2.5 cm下方より右方向に削る。 口縁部内外面は横ナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
94 159 F 50 P 76	V 区 大溝 甕	口. 14.6 体. 18.6 底. 高.	頸部はやや直立ぎみに短くのび，口縁部へと続く。	胴部内面上半は右上りのヘラ削り，下半は左上りのヘラ削りである。 胴部外面は縦，横ハケ目で，上半部に櫛歯の波状文を巡らす。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶色 他.
95 406 F 51 P 77	III 区 1 号溝 壺	口. 36.8 体. 底. 高.	二重口縁部をもつ大型の壺で胴部下半を欠く。 頸部はあまりしまらず，外湾し，直立する口縁部がつく。 口縁部上下端は小さく突出している。	胴部上半から頸部にかけて櫛歯状工具による文様帯をもつ。文様帯の下部はハケ目をナデ消している。 頸部内面もハケ目をナデ消す。 胴部内面は左方向の削り。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶色 他.
96 314 F 51 —	V 区 大溝 壺	口. 体. 68.4 底. 高.	胴部上半のみの破片。 左向き有軸羽状文の文様帯をもつ。	文様帯の調整は縦のハケ目，横のナデ消し，文様という順である。 文様帯の下部は横ハケ目後に縦のハケ目を加える。 内面は左方向のヘラ削り。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶褐色 他. 調整は丁寧

Tab. 10　出土土器観察表(10)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
97 273 F 52 P 78	V 区 大 溝 壺	口. 30.4 体. 50.0 底. 高.	球形の胴部によくしまった直立する頸部がつく。口縁部は外反し，さらに直立する二重口縁をなす。 口縁上端部は外傾し，下端部は下方に垂れぎみとなる。	口縁部は横ナデ，頸部外面は細かい磨き状の横ナデ調整。頸部内面は横ハケ目後に横ナデ調整。 胴部内面は左上りのヘラ削り状のナデ後に横のハケ目調整。外面は縦のハケ目，条痕がみられる。	胎. 密：小砂粒 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
98 95 F 52 —	V 区 大 溝 壺	口. 体. 底. 高.	丸底の底部で，胴部接合部より割れている。	内面は斜めのハケ目調整。 外面はナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 堅緻 色. 茶色 他. 外面に黒斑
99 273 F 52 —	V 区 大 溝 壺	口. 体. 底. 高.	大型壺の底部で丸底をなす。 胎土，色調，焼きともに97に類似している。	内面は縦のハケ目調整，底部内面はナデ調整。 外面は粗い縦ハケ目後に細かい斜めのハケ目調整。底部外面はハケ目をナデ消している。	胎. 密：小砂粒 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
100 152 F 52 P 79	V 区 大 溝 壺	口. 体. 底. 高.	上半部を欠いているため全形を知りえないが，壺の頸部と考えた。 頸部は直立し，口縁部は外反しているが，外面に断面三角形に突出し，二重口縁をなす。	頸部外面は細かい横のヘラ磨き。 胴部内面は時計まわりのヘラ削り。 口縁部内面には櫛歯状の施文具による波状文がある。	胎. 砂粒多い 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
101 177 F 52 —	V 区 大 溝 壺	口. 体. 底. 高.	二重口縁壺の頸部と思われる破片である。 頸部は 100のように直立せず，中位で屈曲し外反する。 口縁部はほぼ垂直に立つ。	胴部内面は左方向のヘラ削り。 他の部分を横ナデ調整。	胎. 密：1㎜大の砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
102 151 F 52 P 79	V 区 大 溝 壺	口. 体. 底. 高.	頸部と胴部の一部の破片のため二重口縁になるかは判断できない。 胴部への移行は内面に稜をもつ。	胴部内面はヘラ削り。 頸部は内外面とも横ナデ調整。 胴肩部に櫛歯様の刺突文があり，羽状文をなすのであろう。	胎. 密：微砂粒 焼. 堅緻 色. 濃茶色 他.
103 89 F 52 —	Ⅳ 区 3号溝東 壺	口. 体. 底. 高.	103～105は小破片で傾きが不正確であるが，壺の肩部と判断した。 右向きの羽状文は櫛歯状の施文具による。	外面はナデ調整。 内面は逆時計まわり（左方向）のヘラ削り。	胎. 密：小砂粒 焼. 普通 色. 赤茶色 他.
104 96 F 52 P 79	Ⅳ 区 3 号 溝 壺	口. 体. 底. 高.	103と同様に櫛歯状の施文具で羽状文をつけるが，互い違いとなっている。	外面はナデ調整。 内面はヘラ削りで，左，右上り，左下り方向をくりかえす。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
105 116 F 52 P 79	V 区 大 溝 壺	口. 体. 底. 高.	103・104に比べ器壁はうすい。 櫛歯状施文具による羽状文は左向きである。	内面はナデ調整。 外面もナデ調整であるが，羽状文部は横ナデで沈線状をなし，羽状文の軸のような効果を出している。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 外：茶褐色 内：明茶色 他.
106 167 F 53 —	V 区 大 溝 甕	口. 22.0 体. 底. 高.	胴部下半を欠く。 胴部の張りは上部になく，球形をなすのであろう。 頸部はあまりしまらず，二重口縁がつく。	二重口縁部は横ナデ調整。 胴部外面は横ハケ目をナデ消す。 内面はヘラ削り後にナデを加える。	胎. 2㎜大の砂粒多い 焼. 普通 色. 淡茶色 他.

Tab. 11　出土土器観察表(11)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
107 269 F53 P80	V区 大溝 甕	口. 27.0 体. 33.3 底. 高. 41.1	倒卵形の胴部に不安定で小さな底部がつく。 頸部はよくしまり，直線的に外傾する口縁がつく。 口縁端部は内側に小さく突出し，上面は平坦に近い。	口縁部から胴肩部にかけては横ナデ調整，肩部内面は横のヘラ削りで下半部はハケ目を加える。 外面は横ハケ目後に縦ハケ目，肩部には10本歯の波状文を巡らす。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
108 265 F54 P76	V区 大溝 甕	口. 22.6 体. 25.8 底. 高.	頸部は小さく外湾し，直線的に外傾する口縁部がつく。 胴部の最大径は中位にある。	頸部と口縁部との接合部内面は強く横ナデされ凹状となる。 胴部外面は細かいハケ目を横ナデ消し，内面は左方向のヘラ削り。	胎. 砂粒多い 焼. 色. 淡灰茶色 他. 磨耗すすむ。
109 400 F54 P80	V区 大溝 甕	口. 27.6 体. 31.1 底. 高. 32.6	胴部は倒卵形をなし，頸部のくびれは大きくない。 口縁部は108に比べさらに立ち上り，口端部は外傾する。	胴部内面は上半が右上りのヘラ削り，下半は左上りのヘラ削り。 外面は上半が横ナデ，下半は細かいハケ目で左から右の順に調整する。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 黒灰茶色 他. 調整丁寧
110 204 F55 P79	V区 大溝 壺	口. 26.0 体. 底. 高.	二重口縁部の破片。 外傾する口縁部は短く，中位でさらに屈曲する。	口縁部外面に竹管文が1個見られる。 口縁部は内外面ともに横ナデ調整。	胎. 密：微砂 焼. 良好 色. 茶色 他.
111 161 F55 P79	V区 大溝 壺	口. 22.6 体. 底. 高.	壺の二重口縁部と考えたが，ヘラ磨きを施すなど他例に比べやや特異である。 口縁部はわずかに外湾して，大きく開く。	口縁部は横ナデ後，上下のヘラ磨きを加える。 胎土，焼成ともたいへん良好。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 暗灰茶色 他. 調整丁寧
112 239 F55 —	II区 1号溝 壺	口. 27.4 体. 底. 高.	頸部は半球状に湾曲し，上部は水平に近い。 口縁部の外傾は大きく，口端部は丸くおさめる。	口縁と頸部との接合部外面は小さく突出し，内面は強く横ナデされ凹状をなす。 頸部内面の横ハケ目はナデ消し。 この下部はナデ上げ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶褐色 他. 調整丁寧
113 48 F55 P79	III区 2号溝 壺	口. 19.6 体. 底. 高.	口縁部の小破片。 頸部下半を欠くが　上半は長くのびる。 口縁部との接合部外面は下方に垂れぎみに突出する。	口端部は丸くおさめている。 外面は横ナデ調整，内面はナデ調整。	胎. 密：精良 焼. 堅緻 色. 淡茶色 他. 調整丁寧
114 225 F55 —	V区 大溝 壺	口. 20.4 体. 底. 高.	口縁部の小破片。 口縁部は短く，口端部は内，外側に小さく突出する。	内外面ともに横ナデ調整。	胎. 砂粒多い 焼. 良好 色. 淡黄茶色 他.
115 25 F55 —	III区 1号溝 壺	口. 24.6 体. 底. 高.	頸部の湾曲は強くない。 口縁部の立ち上りは大きく口端部は小さく引き出され，先細くなっている。	口縁部内面と頸部外面は細かいハケ目調整後に横ナデを加える。 胴部内面は右方向のヘラ削り。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰茶色 他. 調整丁寧
116 67 F55 —	V区 大溝 壺	口. 15.6 体. 底. 高.	口径の小さな二重口縁部で，口縁部と頸部との接合部は外側に小さく突出する。 口端部は平坦面をつくり外傾している。	頸部外面は縦ハケ目を，横ナデ消し。 口縁部内外面は横ナデ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰茶色 他. 内面の調整は雑

Tab. 12　出土土器観察表(12)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
117 168 F55 —	V区 大溝 壺	口. 16.0 体. 底. 高.	116と同じような特徴をもつ。 口端部は平坦面をつくらず丸みがある。	頸部内面はナデ上げ，外面は縦のハケ目を横ナデ消し。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
118 207 F55 —	VI区 大溝 甕	口. 32.4 体. 底. 高.	二重口縁部をもつが壺ではなく甕であろう。 頸部は小さく湾曲し，口縁部は直線的にのびる。	口縁部は横ナデ調整。 頸部内面はナデ上げ，胴部内面はヘラ削りであるが方向不明。	胎. 密：砂粒少ない 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
119 260 F56 P81	VI区 大溝 壺	口. 19.6 体. 底. 高.	球形の胴部にく字形の口縁部がつく。 口端部は先細くなる。	内外面とも細かいハケ目後に横ナデを加える。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 外：赤茶色 内：灰茶色 他.
120 218 F56 —	V区 大溝 壺	口. 15.4 体. 底. 高.	口縁部は直立ぎみにのび上半でわずかに外湾し開く。	口縁部内面は横ナデ後ナデ上げ。 外面は横ハケ目後に横ナデを加える。 胴部外面はナデ，内面はハケ目をナデ消す。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 暗灰茶色 他.
121 271 F56 P81	V区 大溝 壺	口. 体. 39.6 底. 6.5 高.	球状の胴部に不安定な底部がつく。 頸部への移行部は稜はなく丸みがある。	胴部外面はハケ目調整で，上半部はナデ消される。 調整は丁寧である。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 外：灰茶色 内：茶褐色 他.
122 82 F57 P82	VI区 2号溝 壺	口. 16.4 体. 底. 高.	頸屈曲部で明瞭な稜をもち，口縁部は外反する。 口端部の外傾は大きい。	内外面ともハケ目後に横ナデ調整。 胴部内面はナデ。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
123 37 F57 —	II区 1号溝 壺	口. 16.4 体. 底. 高.	広口壺の口縁部破片。 口端部は内側に突出し，上面は外傾している。	口縁外面は縦ハケ目を横ナデ消し。 屈曲部内面の稜は丸みをもつ。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
124 245 F57 P82	V区 大溝 壺	口. 19.2 体. 底. 高.	口縁部はわずかに外湾しながらのび，上部でさらに外反する。 口端部は上下に小さく突出している。 屈曲部は丸みをもつ。	口縁部内外面ともハケ目後に横ナデ調整。 胴部外面はナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
125 140 F57 —	V区 大溝 壺	口. 16.2 体. 底. 高.	直線的にのびる口縁部は上部で外湾する。	外面は縦ハケ目を横ナデ消し。 内面は端部が横ハケ目で下部はナデ調整。	胎. 密：精良 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
126 142 F57 —	V区 大溝 壺	口. 15.6 体. 底. 高.	口縁部は外湾してのび，口端部断面は方形に近い。	外面は縦ハケ目を横ナデ消し。 内面は砂粒露出し，調整痕不鮮明だが，ナデか。	胎. 密：精良 焼. 良好 色. 赤茶色 他.

Tab. 13　出土土器観察表(13)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
127 31 F 57 —	III 区 1 号溝 壺	口. 17.8 体. 底. 高.	口縁部は外湾しながらのび，口端部上面は凹状をなす。 屈曲部の器壁はうすく，外面は窪む。	口縁部は内外面とも横ナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 黒褐色 他.
128 68 F 57 —	V 区 5 号溝 壺	口. 18.2 体. 底. 高.	口縁部は微妙に湾曲しながら強く外反する。 屈曲部は内面は凹状となる。	胴部内面はヘラ削り。 屈曲部内面はナデ上げ。 口縁部は内外面ともハケ目を横ナデ消し。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
129 33 F 57 —	II 区 1 号溝 壺	口. 17.2 体. 底. 高.	屈曲部内面の稜は丸みがある。 口縁部はわずかに外湾しながらのび口端部は丸くおさめる。	屈曲部は縦のハケ目，他は磨耗し，調整痕不明。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 明茶色 他.
130 243 F 57 P 82	V 区 大溝 壺	口. 18.0 体. 底. 高.	胴部から丸く屈曲し，直線的な口縁部がつく。 口端部近くでわずかに外湾している。	屈曲部外面は強い横ナデ，内面はナデ調整。 胴部内面はヘラ削りであるが方向は不明。 口縁部は内外面とも細かいハケ目を横ナデ消し。	胎. 粗：2～5㎜大砂粒 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
131 58 F 57 —	II 区 1 号溝 壺	口. 17.8 体. 底. 高.	口縁部は直線的に開く。 屈曲部内面は稜をもつ。	口縁部外面は粗いハケ目後に丁寧な横ナデを加える。 内面は粗いハケ目調整のまま。 胴部外面は縦ハケ目をナデ消し。 内面はヘラ削りし器壁うすくなる。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
132 60 F 57 —	II 区 1 号溝 壺	口. 21.0 体. 底. 高.	直線的に外反する口縁部はやや凹凸がめだつ。	口縁部内面は横ハケ目を逆時計まわりの横ナデ消し。 外面は縦ハケ目を横ナデ消し。 胴部外面はナデ，内面はヘラ削り。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
133 165 F 58 P 82	V 区 大溝 壺	口. 13.0 体. 19.8 底. 高.	球形の胴部に外反する口縁部がつく。 口端部は先細く丸みをもつ。	口縁部内外面はハケ目を横ナデ消し。 胴部外面はハケ目，下半はナデ調整，内面は右方向のヘラ削り。 屈曲部内面は指押え後ナデ上げ。	胎. 粗 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
134 26 F 58 —	III 区 1 号溝 壺	口. 13.2 体. 底. 高.	球形の胴部に短かく外反する口縁部がつく。	胴部外面はハケ目調整，内面は右上りのヘラ削り。 口縁部は内外面ともにハケ目を横ナデ消し。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
135 136 F 58 —	V 区 大溝 壺	口. 17.6 体. 底. 高.	口縁部の外反は大きく，口端部近くでさらに外反する。 屈曲部内面には稜をもつ。	口縁部は横ナデ調整。 胴部外面はナデ調整，内面は左上りのヘラ削り。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
136 99 F 58 P 82	V 区 大溝 壺	口. 18.0 体. 底. 高.	直口する口縁部は内湾してのび，口端部近くで小さく外湾する。 口縁下部には断面台形の粘土帯を貼り付け格子刻み目を施す。	内面は横ハケ目を横ナデ消し，外面は横ナデ調整。	胎. 密：砂粒多い 焼. 良好 色. 明茶色 他.

Tab. 14　出土土器観察表(14)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
137 34 F 58 —	II 区 1 号溝 壺	口. 13.2 体. 底. 高.	胴部径に比べ口径は小さい。 胴部から丸みをもって屈曲し，外湾して口縁部がのびる。	外面は細かいハケ目調整。 胴部内面は粗いハケ目で，口縁部内面にはハケ目はない。	胎. 密 焼. 良好 色. 明茶色 他.
138 143 F 58 —	V 区 大溝 甕	口. 11.2 体. 底. 高.	球形の胴部から直線的に外反する口縁部がつく。 屈曲部内面の稜は丸みをもつ。 甕形土器とすべきか？。	胴部内面は屈曲部まで右上りのヘラ削り。 外面は横ハケ目調整。 口縁部は内外面とも横ナデ調整。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
139 35 F 58 —	(I区) 壺	口. 14.0 体. 底. 高.	胴部からの屈曲は強くなく，稜もにぶい。 口縁部は凹凸がめだち，口端部は凹状となる。	口縁部内面はハケ目調整，外面は横ナデ。 胴部内面はヘラ削り，外面はハケ目調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 黒褐色 他.
140 199 F 58 —	IV 区 1号溝東 壺	口. 12.8 体. 16.0 底. 高.	小型の胴部に小さく外湾する短い口縁部がつく。	屈曲部は稜はなくナデ上げ調整。 胴部内面は右上りのヘラ削り。 外面は縦のハケ目調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 灰茶褐色 他.
141 141 F 58 —	V 区 大溝 壺	口. 11.8 体. 底. 高.	球形の胴部にく字形に外反する口縁部で，口端部は先細くなり，小さく外湾する。	胴部内面は粗いハケ目調整。 口縁部は横ナデ，屈曲部内面は横ハケ目調整。 胴部外面に黒斑。	胎. 粗：砂粒多い 焼. 良好 色. 茶色 他.
142 66 F 58 P 83	V 区 大溝 壺	口. 14.6 体. 14.0 底. 高.	胴部最大径は口径より小さい。 口縁部は内湾ぎみにのびる。	口縁部内外面は細かいハケ目を横ナデ消し。 胴部内面はナデ，下部はハケ目調整。外面は細かいハケ目で，下部の粘土接合部が沈線状となる。	胎. 密：精良 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
143 249 F 58 P 83	V 区 大溝 壺	口. 12.0 体. 13.4 底. 高. 9.9	84と同じような口縁部をもつ。 胴部のつくりはうすく，偏球状をなす。	口縁部は内外面とも横ナデ。 胴部内面は左上りのヘラ削り，外面はハケ目調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
144 59 F 59 —	II 区 1 号溝 壺	口. 10.8 体. 底. 高.	144～150は直立する口縁部をもつ。144・145の胴部は大きい。 144の口縁部は直線的に内傾するが，凹凸がめだつ。 口端部は丸くおさめる。	口縁部の内外面は横ナデではなくナデ調整。 屈曲部内面はナデ上げ。 胴部外面は左上りのヘラ磨き。 口縁部に黒斑がある。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 外：茶色 内：灰茶色 他,
145 242 F 59 P 83	V 区 大溝 壺	口. 12.4 体. 底. 高.	わずかに外傾する口縁部は長く，中位でへこむ。 下端は胴部との接合のままで，下方に突出している。	口縁内面の横ハケ目は横のナデ消し。 胴部外面はハケ目，内面はナデ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
146 49 F 59 —	II 区 1 号溝 壺	口. 9.0 体. 底. 高.	146～150は胴部最大径よりも口径が小さく，小型で丸底をなすのであろう。	口縁部は横ナデだがやや雑な調整である。 胴部外面はナデ，内面は左方向のヘラ削り。	胎. 密 焼. 良好 色. 褐色 他.

Tab. 15　出土土器観察表(15)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
147 213 F 59 —	V 区 2 号溝 壺	口. 9.8 体. 13.0 底. 高.	球形の胴部に長く直立する口縁部がつく。 屈曲部内面にはにぶい稜をもつ。	口縁部内面は粗い横ハケ目。 外面は口縁部から胴部中位まで縦の粗いハケ目，胴部中位は約1cm幅で時計まわりにヘラ削りを加える。胴部下半は内外面とも細かいハケ目。	胎. 密：精良 焼. 良好 色. 茶色 他.
148 13 F 59 P 83	III 区 1 号溝 壺	口. 8.8 体. 底. 高.	直線的にのびる口縁部は，わずかに外傾する。 屈曲部内面は稜はなく丸みをもつ。	口縁部は内外面とも横ナデ。 胴部外面はナデ，内面は右方向のヘラ削り。 屈曲部内面は強く押して横ナデ，外面には，ハケ目をわずかに加える。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 黒褐色 他.
149 49 F 59 P 83	II 区 1 号溝 壺	口. 11.4 体. 底. 高.	屈曲部内面には稜をもち，直線的にのびる口縁部が続く。 口端部は先細くつくる。	胴部内面は磨き的なナデ調整。 口縁部内外面と胴部外面は細かい横の磨きを加える。	胎. 砂粒少 焼. 良好 色. 褐色 他.
150 50 F 59 —	I 区 南壁砂上 壺	口. 9.8 体. 底. 高.	口縁部は短く直立し，口端部は小さく外反する。	口縁部と胴部外面はナデ調整。 胴部内面は左方向のヘラ削りで上部は指押え。	胎. 砂粒少 焼. 普通 色. 外：濃茶色 内：茶色 他.
151 248 F 59 P 83	V 区 2 号溝 壺	口. 9.4 体. 11.2 底. 高. 11.2	球形の胴部に尖りぎみの丸底がつく。 口縁部は直線的に外反し，口端部は先細くつくる。 口径よりも胴部最大径が大きい。	屈曲部内面はにぶい稜をもつ。 胴部外面はナデ，内面は整形時の指ナデ上げのままである。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
152 36 F 59 P 83	III 区 1 号溝 壺	口. 10.8 体. 10.0 底. 高.	胴部は球形をなすが，張りがない。 屈曲部は稜がなく丸く屈曲し， 口縁部は直線的に外反する。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面はヘラ削りで，外面は粗いハケ目を横ナデ消し。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 外：黒褐色 内：褐色 他.
153 77 F 59 P 83	(IV区) 壺	口. 10.4 体. 10.8 底. 高.	屈曲部は肥厚し，内面ににぶい稜をもつ。 口縁部は外湾しながらのび，口端部は先細くつくる。	口縁部内面は横ハケ目後に横ナデを加える。 胴部内面は左方向のヘラ削り，外面は粗い横のハケ目調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
154 261 F 59 P 83	V 区 2 号溝 壺	口. 8.4 体. 9.9 底. 高. 9.7	球形の胴部はやや上位に張りをもつ。 外傾する口縁部は，わずかに内湾している。口端部は丸くおさめる。	口縁外面は細かいハケ目を横ナデ消し。 胴部外面は細かいハケ目調整。 内面上部は右方向のヘラ削り，下部は指ナデ上げ。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
155 147 F 59 P 83	V 区 2 号溝 壺	口. 9.2 体. 8.8 底. 高. 8.6	胴部は浅く偏球形をなす。 外傾する口縁部は口端部近くでさらに外反し，先細くつくる。	口縁部は内外面とも横ナデ。 胴部外面はナデ，内面は強く指ナデ上げ。 胴部の調整はやや粗雑。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
156 62 F 59 P 83	V 区 2 号溝 壺	口. 9.0 体. 8.4 底. 高.	胴部に張りはなく，口径が胴部最大径より大きい。 屈曲部は肥厚し，内面ににぶい稜をもつ。 口縁部は微妙に湾曲しながら外傾する。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面はヘラ削りか？	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他. 全体的に磨耗

Tab. 16　出土土器観察表(16)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
157 146 F59 P83	V区 2号溝 壺	口. 8.4 体. 7.8 底. 高. 8.1	156と同じように口径が胴部最大径より大きいつくりをなす。 屈曲部外面は強く横ナデし凹状をなす。	口縁部は横ナデ調整。 胴部は内外面ともナデ調整。	胎. 密：砂粒やや多い 焼. 良好 色. 茶色 他.
158 262 F59 P83	(V区) 壺	口. 8.4 体. 9.5 底. 高. 8.2	よく整った形状をなす。 屈曲部は稜はないが，下方に突出ぎみである。	口縁部内面は横ハケ目を横ナデ消し。 胴部外面は細かいハケ目調整で丁寧な調整をなす。 内面下部は強く指ナデ上げ。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他. 外面に煤付着
159 145 F80 P85	V区 2号溝 壺	口. 9.6 体. 8.0 底. 高. 8.0	159～161は口縁部が長く口径が胴部最大径よりも大きい形状をなす。 器壁は厚く調整は丁寧である。	口縁部はハケ目を横ナデ消し。 胴部外面は横の粗いハケ目，内面は強く指ナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
160 247 F60 P85	IV区 大溝 壺	口. 8.8 体. 7.6 底. 高. 7.5	胴部は半球状で，口縁部の立ち上りは大きい。	口縁部は横ナデ調整。 胴部外面はナデ，底部は指押えか。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
161 19 F60 —	III区 1号溝 壺	口. 12.6 体. 9.8 底. 高.	胴部は半球形に近く，口縁部はきわめて長く，口径は胴部最大径より大きい。 口縁部は微妙に湾曲してのび，口端部は先細くなる。	口縁部内面は横ハケ目後に横ナデを加え，ハケ目はほとんど消える。 外面は横の磨きか？ 胴部内面は横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 明茶色 他.
162 137 F60 P85	V区 大溝 壺	口. 9.2 体. 15.2 底. 高. 15.3	球形の胴部の中位には焼成後に穿孔される。 口縁部を欠く。	胴部上半はハケ目をナデ消しか？ 下半は細かいハケ目調整。 底部近くに黒斑。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
163 57 F60 P85	(V区) 壺	口. 7.2 体. 7.1 底. 高. 6.7	163～168は小型丸底壺形の手捏ね土器である。 胴部は球形で，尖りぎみの底部がつく。 口縁部の器壁はうすいつくりで，小さく引き出している。	口縁部外面は指押え後にナデ調整。 胴部内面は強く指ナデ上げ。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
164 56 F60 P85	(V区) 壺	口. 7.0 体. 7.2 底. 高. 6.2	胴部の張りはなく，底部は丸底であるが安定感がある。 口縁部は直線的に外傾する。	外面は縦ハケ目を横ナデ消し。 底部外面は粗いハケ目。 胴部内面上半はナデ，下半は底部中心より放射状に指ナデ上げする。 順序は左まわり。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
165 148 F60 P85	V区 2号溝 壺	口. 5.0 体. 6.5 底. 3.8 高. 5.2	底部は不整形であるが平底をなす。 口縁部は胴部から内面に稜をもって屈曲し，小さく外反する。	外面は粗いハケ目。 内面は指ナデ上げ。	胎. 粗：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
166 162 F60 P85	II区 1号溝 壺	口. 4.8 体. 5.6 底. 高. 4.8	球形の胴部に小さく外反する口縁部がつく。	胴部外面はハケ目。 内面は右上りの指ナデ上げ。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.

Tab. 17　出土土器観察表(17)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
167 135 F60 P85	II区 1号溝 壺	ロ. 4.2 体. 5.1 底. 高. 4.9	胴部最大径は下方にあり，上半部は内傾する。 口縁部は小さく，直立ぎみにのび，口端部は先細くなる。	胴部内面は底部から指ナデ上げ。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
168 134 F60 P85	II区 1号溝 壺	ロ. 3.6 体. 5.0 底. 高. 4.2	底部は丸底で厚いつくりをなす。 口縁部はわずかに外湾しながら直立する。	口縁部下半は強く横ナデし，凹状となる。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
169 52 F60 P85	(V区) 鉢	ロ. 9.0 体. 底. 高. 4.6	不安定な底部から体部は外湾してのび，そのまま口縁部をつくる。	内面は上半部が細かいハケ目，下半部はナデ。 外面は上から下へのヘラ押えぎみのナデ。底部はナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 褐色 他.
170 210 F60 P85	V区 大溝 鉢	ロ. 9.0 体. 底. 高. 4.7	底部は凹凸があり，きわめて不安定。 体部は外湾しながら開き，口端部は丸くおさめる。	口縁部は波うち，器面の調整は指押えのまま。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
171 54 F60 P85	(V区) 鉢	ロ. 7.6 体. 底. 4.6 高. 4.9	底部は平底に近い形状をなす。 体部は直立ぎみにのび，口端部は先細くつくる。 口縁部は波打つ。	口縁部は横ナデし，わずかに段がつく。 体部外面は粗いナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
172 258 F60 P85	V区 2号溝 鉢	ロ. 7.4 体. 底. 2.9 高. 4.3	底径は小さく上げ底となる。	体部内面は丁寧なナデ調整。 外面はヘラナデ上げ。	胎. 砂粒少ない 焼. 良好 色. 外：灰茶色 内：暗灰茶色 他.
173 163 F60 P85	III区 1号溝 鉢	ロ. 4.4 体. 底. 高. 2.8	丸底から直線的に内傾する体部がのびる。	外面は指押えのままで，内面はナデ調整を加える。	胎. 砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
174 133 F60 P85	III区 1号溝東 鉢	ロ. 5.8 体. 底. 高. 2.2	半球形の体部で底部は尖る。	外面は指押えで内面はナデ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 黒褐色 他.
175 363 F60 P85	III区 1号溝 鉢	ロ. 4.4 体. 底. 1.7 高. 4.5	底部は不安定な平底で，体部の立ち上りは大きく直立ぎみにのび，口端部は丸みをもつ。	体部外面は2段の指押えで凹凸がめだつ。 口縁部は波打ち，いびつである。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
176 64 F60 —	V区 大溝 鉢	ロ. 13.2 体. 11.8 底. 高.	176～180は偏球形の体部に内湾ぎみにのびる口縁部がつくもので，鉢ではなく小型丸底壺とすべきか。 176の屈曲部内面は稜がつくがあまりするどくない。	口縁部は横ナデ調整。 体部内面はナデ，外面は細かいヘラ磨きを加える。	胎. 密：精良 焼. 良好 色. 黒褐色 他.

Tab. 18　出土土器観察表(18)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
177 29 F60 —	II 区 1 号溝 鉢	口. 17.2 体. 14.2 底. 高.	偏球形の体部は中位でふくらむ。口縁部は外湾しながらのび，口端部は断面方形をなす。	口縁部は横ナデ調整。 体部内面はヘラナデ（あるいはヘラ削りか）。 外面は縦ハケ目をナデ消す。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 濃茶色 他.
178 123 F60 —	V 区 大溝 鉢	口. 11.6 体. 10.6 底. 高.	偏球形の体部に直立ぎみの口縁部がつく。 屈曲部内面の稜はにぶい。	内外面とも横ナデ調整。	胎. 密：精良 焼. 良好 色. 淡赤茶色 他.
179 189 F60 —	IV 区 大溝 鉢	口. 12.0 体. 9.7 底. 高.	体部は半球形に近く，屈曲部のくびれは弱く，そのまま口縁部へのびる。 屈曲部内面は稜をもつ。	口縁部内面は細かいハケ目後に横ナデ調整。 体部内面は粗いハケ目。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶色 他.
180 12 F60 —	III 区 鉢	口. 15.6 体. 11.2 底. 高.	深さのない偏球形の胴部に大きく外に開く口縁部がつく。 屈曲部内面は小さく突出し，口縁部は微妙に湾曲してのび，口端部は先細くつくる。	器面の調整は丁寧な横ナデ調整で，うすいつくりをなす。	胎. 密：精良 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
181 55 F61 —	(V区) 鉢	口. 10.0 体. 9.8 底. 高. 6.8	半球形の体部上半は直立ぎみにのび，口縁部は小さく外反し，丸くおさめる。	口縁部は横ナデ調整。 体部上半はナデ，下半は右上りの指ナデ上げ。 底部に葉脈痕が見られる。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 黒褐色 他.
182 53 F61 P84	(V区) 鉢	口. 10.8 体. 底. 高. 2.8	浅い半球形の体部で，口縁部はそのまま丸くおさめる。	内面は丁寧なナデ調整。 外面下半部は横の細かいハケ目。	胎. 密：小砂粒少ない 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
183 120 F61 P84	V 区 大溝 鉢	口. 9.6 体. 底. 高. 3.5	平底ぎみの底部から体部は大きく湾曲してのび，上半部は直立する。	口縁部外面は指押え。 内面は左上りの指ナデ上げ。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶色 他.
184 124 F61 —	V 区 大溝 鉢	口. 11.4 体. 底. 高. 4.9	半球形の体部で底部を欠く。 口縁端部は丸くおさめる。	外面はナデ，内面は丁寧な横ナデ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 明茶色 他.
185 21 F61 P84	II 区 1 号溝 鉢	口. 14.6 体. 底. 4.6 高. 3.9	いわゆる低脚付坏形土器に近似している。 底部の台は側面を小刻みに押えて引き出している。	体部内面の上半はハケ目後にナデを加える。外面はナデ調整。 合部外底は上げ底状をなし，粗いハケ目調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 堅緻 色. 茶褐色 他.
186 121 F61 —	V 区 大溝 鉢	口. 15.6 体. 底. 高.	口縁部内面には横ナデ調整でわずかながら段をもつ。外面には浅い沈線が巡っている。	口縁部は横ナデ調整。 体部はナデ調整で，内面のナデは丁寧である。 体部に黒斑がある。	胎. 密：精良 焼. 良好 色. 茶色 他.

Tab.19　出土土器観察表(19)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
187 94 F61 —	V区 大溝 鉢	ロ. 21.6 体. 底. 高.	丸底から体部は外湾しながら大きく開き，中位で緩やかに屈曲し，口縁部でさらに小さく外湾する。	体部内面は粗い横ハケ目。 外面は横ナデ調整。 体部下半には煤が付着し土鍋的な使用法が考えられる。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 褐色 他.
188 179 F61 —	VI区 大溝 鉢	ロ. 23.4 体. 底. 高.	底部を欠くが半球形をなすのであろう。 口端部は凹状となる。	体部内面上半と外面下半はハケ目調整。 他の部分はナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
189 185 F61 —	VI区 大溝 鉢	ロ. 24.8 体. 底. 高.	体部下半を欠くが口縁部のつくりは 190とよく類似した特徴をもつ。 口縁部は外湾ぎみにのびるが，屈曲部に低い突帯を巡らす。	突帯部は横ナデ調整。 他の部分はナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
190 70 F61 —	VI区 大溝 鉢	ロ. 28.6 体. 底. 高.	189に比べ口縁部の立ち上りは小さく，体部も半球形をなす。 突帯は断面三角形であるが低く，幅広い。	口縁部内面は凹状をなす。 口縁部内外面と突帯部は横ナデ調整。 体部は内外面ともナデ調整。 ナデは粗雑だが，胎土精良のため磨き状の調整となっている。	胎. 密：精良 焼. 堅緻 色. 褐色 他.
191 309 F62 —	VII区 7号溝 高坏	ロ. 33.0 体. 底. 高.	大型の坏部で，上半部は長く湾曲してのびる。 上半部の器壁は下半部に比べかなりぶ厚いつくりをなす。	上半部外面は縦の磨き。 内面は横ハケ目をナデ消し，さらに縦の磨きを加える。 下半部内面はハケ目をナデ消す。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
192 169 F62 —	VII区 7号溝 高坏	ロ. 33.8 体. 底. 高.	下半部を欠いているが高坏と考えた。 下半部は湾曲しながらのび，上半部は反転し，外湾してのびる。	外面は縦ハケ目後にナデ調整を加える。 内面上半部は粗い横のハケ目後に横ナデ，下半部は縦ハケ目後にナデ調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
193 214 F62 —	V区 大溝 高坏	ロ. 18.8 体. 底. 高.	坏部下位の屈曲部は，外面にわずかに段をもつ。内面は沈線上となる。 上半部は外湾しながらのび，口縁端断面は方形に近い。	屈曲部外面にわずかにハケ目が見られる。 上半部は内外面ともに横ナデ。	胎. 密：砂粒少 焼. 普通 色. 茶色 他.
194 171 F62 P84	(V区) 高坏	ロ. 19.0 体. 底. 高.	下半部は水平に近く，上半部は内湾ぎみにのび，口縁部で小さく外湾している。	上半部外面は横ナデ調整。 内面は横ハケ目後に横ナデを加える。	胎. 密：砂粒少 焼. 普通 色. 茶色 他.
195 18 F62 —	III区 高坏	ロ. 19.0 体. 底. 高.	坏部上半部の小破片。 上半部は屈曲部より緩やかに外反するが，口縁端でさらに外反している。	全体的に磨耗し，調整痕は，不鮮明。	胎. 密：小砂粒わずか 焼. 良好 色. 赤褐色 他.
196 170 F62 P84	IV区 大溝 高坏	ロ. 17.4 体. 底. 高.	下半部は内湾しながらのび，上半部は微妙に湾曲しながらのびる。 脚部接合部で剝離。	外面はハケ目を横ナデ消し。 内面上半部は横ナデ，下半部はナデ調査。	胎. 密：小砂粒多め 焼. 良好 色. 茶色 他.

Tab. 20　出土土器観察表(20)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
197 132 F62 P84	Ⅲ区 ピット 高坏	口. 18.8 体. 底. 高.	脚裾部を欠く。坏部のほぼ中位で屈曲するが，丸みがある。 下半部はわずかに内湾しながらのび，上半部は外反し，口縁部でさらに外反する。	脚柱状部は中位でふくらむ。 坏部外面は細かいハケ目後にナデ調整。 内面はナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 黄茶色 他.
198 188 F62 —	V区 大溝 高坏	口. 20.8 体. 底. 高.	屈曲部より下半部を欠く。 上半部は外湾しながらのび，口縁部でさらに微妙に湾曲する。	外面は縦の粗いハケ目後に横ナデを加える。 内面は横ハケ目後にナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他. 外部に黒斑
199 138 F62 P84	V区 大溝 高坏	口. 18.2 体. 底. 高.	坏部屈曲部は下位にあり，上半部が下半部に比べ長い。 下半部は水平に近い。 上半部は直線的に外反する。	外面はハケ目を横ナデ消し。 下半部内面はナデ，屈曲部内面にハケ目が見られる。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 茶色 他.
200 182 F62 —	V区 大溝 高坏	口. 18.8 体. 底. 高.	坏部上半部の小破片。 外反する上半部は中位でわずかに湾曲している。 口縁端は丸くおさめる。	内面は横ナデ調整。 外面は縦ハケ目後に横ナデを加える。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 黄茶色 他.
201 230 F62 —	V区 大溝 高坏	口. 体. 底. 高.	坏部の口縁部を欠く。 下半部は水平でなく，わずかに内湾している。 屈曲部外面は丸みをもつ。	上半部外面はハケ目後に下半部にかけて横ナデ調整。 屈曲部内面には横ハケ目が見られる。 脚部接合部で剝離。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 暗灰茶色 他.
202 244 F62 P84	Ⅱ区 1号溝 高坏	口. 16.0 体. 底. 高.	坏部屈曲部は中位に近くあがり，上下半部の長さが等しくなる。 下半部は内湾ぎみにのび，上半部は口縁部近くでわずかに外湾する。	外面は横ナデ調整。 内面は粗いナデ調整。 脚部接合部で剝離。	胎. 密：小砂粒 焼. 普通 色. 茶色 他. 外面に黒斑
203 38 F63 —	Ⅱ区 1号溝 高坏	口. 17.8 体. 底. 高.	坏部の破片で脚部を欠く。 坏部下位で屈曲し，直線的に開く口縁部がのびる。	内外面ともにハケ目後に横ナデ調整を加える。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 外：赤茶色 内：茶褐色 他.
204 139 F63 P84	V区 大溝 高坏	口. 13.4 体. 底. 高.	坏部下位で屈曲するが，口縁部の立ち上りは大きい。 脚部との接合部で剝離している。 接合部は山形に突出し挿入接合している。	屈曲部下位外面はハケ目で，後に横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 黄茶色 他.
205 256 F63 P84	Ⅱ区 1号溝西 高坏	口. 13.2 体. 底. 高.	134とともに口径の小さい坏部で，形状の特徴も一致する。 屈曲部外面は，器壁が盛りあがる。	内面は横ハケ目を横ナデ消す。 外面は横ナデ調整。 屈曲部外面には縦のハケ目が見られる。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
206 209 F63 —	Ⅵ区 大溝 高坏	口. 体. 底. 高.	坏部の屈曲部より下半のみの破片。屈曲部の接合方法がよく観察できる。	接合部は横のハケ目をいれ，さらに上面に刻み目を巡らし，接合を容易にしている。 外面はハケ目，後に横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 茶褐色 他.

Tab. 21　出土土器観察表(21)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
207 63 F63 P86	V区 大溝 高坏	口. 19.0 体. 底. 高.	坏部は2段の屈曲部をもつ。 一段目は垂直近く立ち上り，二段目は大きく外に開く。 口縁端内面は上方に小さく突出している。	2段の屈曲部はいずれも丸みがある。 口縁部はハケ目を横ナデ消す。	胎. 密：小砂粒 焼. 堅緻 色. 黒灰茶色 他.
208 43 F63 P86	III区 1号溝 高坏	口. 17.0 体. 底. 高.	丸形の坏部で，中位に段をもつ。 脚部との接合部で剝離。	内面は丁寧なヘラ削り。 外面は段より上部が横ナデ調整，下部は粗いヘラ削り。 脚部との接合面は粗い条痕をいれている。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 黒茶褐色 他.
209 276 F63 P86	V区 大溝 高坏	口. 体. 底. 13.4 高.	坏部を欠く。 柱状部より，裾部は湾曲しながら広がる。 湾曲部に3か所で焼成後の穿孔が見られる。	内外面ともに粗いハケ目後にナデ調整を加える。 柱状部内面にはしぼり痕が見られる。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
210 174 F63 P86	V区 大溝 高坏	口. 体. 底. 12.4 高.	柱状部はさらに細く，坏部と接合法が観察できる。 脚端部内面に1条の沈線がめぐる。 湾曲部の3か所に焼成前の穿孔がある。	柱状部外面は縦のナデ。 下部はハケ目後にタテの磨きを加える。 脚端部内面は時計まわりの横ハケ目調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
211 175 F63 P86	V区 大溝 高坏	口. 体. 底. 12.4 高.	210と同じように坏部との接合法をとる。 脚裾部は，直線的に開く。 湾曲部の3か所で小孔がある。この小孔は器面調整後の穿孔。	柱状部内面は指による横方向のナデで凹凸がめだつ。 外面はハケ目後にナデ調整。 内面は横ハケ目調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 暗灰茶色 他.
212 164 F63 P86	VI区 大溝 高坏	口. 体. 底. 12.0 高.	柱状部は，筒状に中空になっていない。 脚裾部は直線的に大きく開く。 焼成前の穿孔が3か所で見られる。	内面はナデ調整。 外面は横の細かい磨き。 磨きを加えているが，調整は全体的に粗い。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
213 313 F63 P86	IV区 5号溝 高坏	口. 体. 底. 10.8 高.	柱状部は中位でわずかにふくらむ。 柱状部の器壁は厚いが，脚裾部はうすいつくりである。	柱状部はヘラ押さえで粗い整形をなす。 内外面とも粗いハケ目。 小孔はない。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶色 他.
214 22 F63 P86	I区 1号溝 高坏	口. 体. 底. 12.4 高.	柱状部はさらにふくらむ。 脚裾部は湾曲しながら大きく広がる。 屈曲部の2か所で穿孔。	柱状部外面は横ハケ目後に上下のナデ消し。 脚端部外面はハケ目を横ナデ消し。 内面は横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少ない 焼. 良好 色. 茶色 他.
215 86 F64 P87	V区 大溝 高坏	口. 体. 底. 12.8 高.	高坏の脚部と考えたが，形状は240の小型器台に類似している。 脚部は大きく開き，筒状をなさない。 脚端部でわずかに屈曲している。	外面は縦ハケ目をナデ消す。 内面は上部がヘラ削り，下部はハケ目後に横ナデ調整を加える。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶褐色 他. 調整は丁寧
216 14 F64 P87	III区 高坏	口. 体. 底. 12.4 高.	ハ字形に開く脚部で，接地部は水平になる。 脚端部は先細く，丸みをもつ。	外面はヘラで上下に整形し，細かいハケ目調整を加える。 脚端部は内外面とも横ナデ調整。 脚内面の上部はヘラ削り，下部は横ナデ後に縦のナデ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶色 他.

Tab. 22　出土土器観察表(22)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
217 14 F64 —	III 区 高 坏	口. 体. 底. 13.4 高.	217と同じ特徴をもつが，手法に違いがある。	脚端部の外面は横ナデ調整，内面はナデ調整。 脚部外面は縦のナデ調整。	胎. 密：砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
218 15 F64 —	III 区 ピット 高 坏	口. 体. 底. 10.6 高.	脚部は下部で屈曲し，ほぼ水平な裾部をつくる。 屈曲部内面は稜がつく。	脚裾部は内外面ともに横ナデ調整。 脚筒部外面はナデ，内面はヘラ(?)ナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 赤茶色 他.
219 234 F64 —	I 区 1 号溝 高 坏	口. 体. 底. 11.8 高.	下部で屈曲し裾部をつくるが，218に比べ屈曲は弱い。	脚筒部内面は，逆時計方向のヘラ削り後にナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 堅緻 色. 茶色 他.
220 227 F64 —	V 区 大 溝 高 坏	口. 体. 底. 13.8 高.	219のように下部で屈曲し，裾部をつくるが，長く，脚径が大きい。	脚筒部内面は逆時計方向のヘラ削り。 他の部分はハケ目後にナデ調整を加える。	胎. 密：小砂粒少ない 焼. 良好 色. 外：茶色 内：赤茶色 他.
221 246 F64 P87	V 区 大 溝 高 坏	口. 体. 底. 13.6 高.	特異な形状をなす脚部で裾部は屈曲部から湾曲してのび，先端は細くなっている。 脚裾部には焼成前に3か所で穿孔される。	脚筒部内面は逆時計方向のヘラ削り。 他の部分は横ナデ調整。	胎. 密：小砂粒 焼. 普通 色. 赤茶色 他.
222 253 F64 P87	II 区 1 号溝	口. 体. 底. 5.8 高.	222～230は小型の台で上部形は知りえないが，多くは台付鉢となるのであろう。	外面は横ナデ調整。 内面はナデ調整。	胎. 粗 焼. 普通 色. 赤茶色 他.
223 17 F64 P87	III 区 1 号溝	口. 体. 底. 8.0 高.	ハ字形に開く台であるが，接地部は水平に屈曲している。 上部への移行部は凹状にへこむ。	鉢内面はナデ調整。 台部は横ナデ調整。	胎. 密 焼. 普通 色. 黒茶色 他.
224 122 F64 P87	V 区 大 溝	口. 体. 底. 7.8 高.	台部は中位で屈曲し，水平な裾部をつくる。 上部は球形の鉢か？	鉢(?)の内外面はナデ調整。 台部は横ナデ調整で，内底部はナデ仕上げ。	胎. 密：1㎜大の砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
225 11 F64 P87	III 区 2 号溝	口. 体. 底. 6.8 高.	上部と接合部より剝離している。 台部は湾曲しながら開く。	台部は内外面ともに横ナデ調整。	胎. 密：小砂粒多 焼. 普通 色. 茶色 他.
226 8 F64 P87	III 区 2 号溝	口. 体. 底. 8.8 高.	上部で屈曲し，直線的に大きく開く。 内底部中央は小さく窪んでいる。	内面はハケ目後に横ナデを加える。 外面は横ナデ調整。	胎. 密：精良 焼. 普通 色. 茶色 他.

Tab. 23　出土土器観察表(23)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
227 9 F64 P87	III区 2号溝	口. 体. 底. 9.4 高.	226と同じように上部で屈している。 上部とは剝離ではなく，折られた状況を示す。	外面はハケ目を横ナデ消し。 内面はナデ調整か？	胎. 密：精良 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
228 160 F64 P87	V区 大溝	口. 体. 底. 10.4 高.	湾曲しながら開き，接地部は水平になる。 上部接合部より剝離。	内外面は横ナデ調整であるが，端部にはわずかにハケ目が見られる。	胎. 密：砂粒少ない 焼. 普通 色. 茶色 他.
229 7 F64 P87	III区	口. 体. 底. 11.6 高.	背の低い台で，大きく開く。 上部は球形の鉢か，甕になるのであろう。 脚端部内面は沈線がめぐる。	上部内面はヘラ（？）ナデ。 接合部外面はハケ目。 台部は内外面とも横ナデ調整。 外底部はナデ調整。	胎. 密：小砂粒多め 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
230 126 F64 P87	V区 大溝	口. 体. 底. 6.0 高.	小さな台に大きく開く上部がつく。蓋とも考えられるが内面が丹塗りされていることから台付の器形を考えた。	上部内面は放射状の細かい磨き， 外面は縦ハケ目調整。 台部は横ナデ，内面には横ハケ目がみられる。	胎. 密 焼. 良好 色. 茶色 他.
231 274 F65 P88	（IV区） 器台	口. 8.4 体. 5.2 底. 9.6 高. 15.7	中位でくびれる円筒の器台である。 くびれ部内面には稜がある。	体部は粗いハケ目（7歯）調整。 内面はくびれ部より上下に指ナデ調整。	胎. 密：砂粒少ない 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
232 275 F65 P88	VI区 大溝 器台	口. 7.9 体. 6.2 底. 9.5 高. 16.6	破片であるが全形を知りえる。 くびれ部はあまりしまらず，下径が上径に比べやや大きい。	体部は縦のハケ目調整。 上下端部は内外面ともに横ナデ調整。 くびれ部内面は上下に指ナデ調整。	胎. 密：砂粒少ない 焼. 普通 色. 濃灰茶色 他.
233 264 F65 P88	VI区 大溝 器台	口. 9.6 体. 6.1 底. 10.0 高. 17.1	中位のくびれ部から下半を欠く。 くびれ部から緩やかに外湾して口縁へ続く。 上端部はわずかに外傾し，上面は凹状をなす。	外面は縦ハケ目調整。 くびれ部内面はヘラ押え状の調整か？	胎. 密：砂粒少ない 焼. 堅緻 色. 灰茶色 他.
234 186 F65 —	V区 大溝 器台	口. 体. 底. 12.8 高.	器台の下端部の破片。 ハ字形に開いており，中位でくびれるのであろう。	内外面ともに指押え痕が見られる。	胎. 粗：砂粒多い 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：白灰色 他.
235 310 F65 —	VI区 大溝 器台	口. 体. 底. 6.4 高.	筒形の器台で，中位はくびれていない。 接地部は平坦で，厚い器壁をなす。	内外面ともに縦のナデ調整。 外面には右下りの粗い叩き痕が見られる。	胎. 密：砂粒少ない 焼. 堅緻 色. 淡茶色 他.
236 125 F65 P88	V区 大溝 器台	口. 体. 底. 17.4 高.	器受部口縁を欠いている。 中位にある屈曲部は内面に稜をもつ。 屈曲部上段の突帯は下方に垂れぎみとなる。	器受部内面は細かいヘラ磨き。 脚台部は内面はヘラ削り。 外面は横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少ない 焼. 堅緻 色. 茶色 他.

Tab. 24　出土土器観察表(24)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
237 149 F 65 —	V 区 大 溝 器 台	口. 体. 底. 15.8 高.	鼓形器台の脚台部で一段目の突帯まで残る。 屈曲部突帯は小さく水平に突出している。	内面上部は右上りのヘラ削り。 他の部分は横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少ない 焼. 普通 色. 茶色 他.
238 150 F 65 —	V 区 大 溝 器 台	口. 体. 底. 16.8 高.	鼓形器台の下半部破片である。 脚台部は大きく開いている。	内面屈曲部近くはヘラ削りのようであるが，方向は不明。 他の部分は横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少量 焼. 普通：やや軟質 色. 明茶色 他.
239 40 F 65 —	II 区 1 号 溝 器 台	口. 体. 底. 18.8 高.	鼓形器台の脚台部であろう。 大きく開いており，端部は水平に接地している。	内面上部は逆時計方向のヘラ削り。 他の部分は横ナデ調整。	胎. 密：砂粒少量 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
240 51 F 65 P 88	(V区) 器 台	口. 10.0 体. 底. 10.8 高. 7.6	皿形の受部を持つ器台である。 受部口縁は上方に小さく突出している。 脚部には4か所に焼成前の穿孔がある。	外面は横ナデ調整。 受部内面はハケ目調整。 脚部内面はハケ目調整。	胎. 密：砂粒少量 焼. 普通 色. 灰茶色 他.
241 281 F 66 P 89	II 区 1 号 溝 赤焼土器	口. 体. 底. 高.	く字形口縁部の内側は強く横ナデされ凹状となる。 口縁端は丸みをおび，やや上向きである。	屈曲部外面は強く横ナデする。内面は横ナデで2段のにぶい稜をもつ。 体部外面の叩きは方形を呈し浅い。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 赤茶色 他.
242 279 F 66 P 89	II 区 1 号 溝 赤焼土器	口. 16.0 体. 底. 高.	体部上半の小破片。 体部上半は緩やかに外湾しながら内傾し，く字形に外反する口縁部がつく。	口縁部内面が凹状をなすのは 241 と同じであるが，口縁端はさらに丸細くなる。 磨耗のためか叩き痕は不鮮明。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 赤茶色 他.
243 277 F 66 P 89	III 区 赤焼土器	口. 体. 底. 8.5 高.	平底から体部はわずかに外湾しながら直線的にのびる。 内面の底部から体部への移行部は強く横ナデしている。	体部下端は約1cm幅で時計まわりの強いナデ（ヘラ削り？）。 底部中央部は指押えで上げ底状をなす。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 外：灰茶色 内：淡灰茶色 他.
244 280 F 66 P 89	II 区 1 号 溝 赤焼土器	口. 体. 底. 9.5 高.	体部下端は，時計まわりのナデ（ヘラ削り？）でこの後に体部の叩きを加える。さらに部分的ではあるが叩き痕をナデ消している。	体部内面はナデ調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 外：暗赤茶色 内：赤茶色 他.
245 278 F 66 P 89	II 区 1 号 溝 赤焼土器	口. 体. 底. 10.0 高.	外面の体部と底部との境はするどい。 底部は243・244に比べうすい器壁をなす。	体部外面の叩き痕は明瞭で方形を呈する。 体部下端は約 1.5cm幅で時計まわりの横ナデ（ヘラ削り？）で，この後に体部外面に叩きを施している。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 外：暗赤茶色 内：赤茶色 他.
246 180 F 67 —	IV 区 5 号 溝 坏 身	口. 11.4 体. 12.8 底. 高. 4.2	受部は水平に短かく突出する。 立ち上り部は直線的に内傾し，端部は斜めにつくる。	底部のヘラ削りは約½を占める。 底部内面は凹凸がめだつ。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰色 他.

Tab. 25　出土土器観察表(25)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
247 3 F67 P90	III区 坏身	口. 12.0 体. 14.6 底. 高.	受部は水平で，立ち上り部は湾曲しながらのびる。 端部は内傾し，つくりはシャープである。	底部のヘラ削りは⅔以上を占める。 ロクロ回転は逆時計まわり。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰色 他. 外面は灰をかぶる
248 1 F67 P90	III区 2号溝 坏身	口. 12.0 体. 14.6 底. 高.	247と同じ特徴をもつ。 立ち上り部は中位で湾曲しているがより直線的である。	全体にシャープなつくりをなす。 底部のヘラ削りは⅔以上を占める。 ロクロ回転は逆時計まわり。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 黒灰色 他. 外面は灰をかぶる
249 2 F67 —	III区 1号溝 坏身	口. 13.0 体. 15.6 底. 高.	水平に突出する受部に湾曲してのびる立ち上り部がつく。	立ち上り端部は内傾する。 底部のヘラ削りは⅔以上を占めるが鋭利でない。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰色 他. 外面は灰をかぶる
250 197 F67 —	IV区 5号溝東 坏身	口. 13.2 体. 15.6 底. 高.	立ち上り部は短かく，端部は断面方形でなく先細くなる。	底部のヘラ削りは不明。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰色 他.
251 181 F67 —	IV区 5号溝西 坏身	口. 11.8 体. 14.0 底. 高.	底部を欠く小破片。 受部は小さく水平に突出する。 立ち上り部は内湾しながらのびる。	底部のヘラ削りは不明。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰色 他.
252 251 F67 P90	VI区 5号溝 坏身	口. 11.4 体. 13.2 底. 高. 4.1	底部は丸みを失い尖りぎみ。 受部は小さく，立ち上り部は直線的にのびる。	底部のヘラ削りは½を占める。 底部にはヘラ描き記号。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰色 他.
253 250 F67 P90	II区 1号溝 坏身	口. 11.0 体. 13.4 底. 高. 0.4	底部は丸みがある。 受部は水平でなく，立ち上り部は内傾し，端部は丸くおさめる。	底部のヘラ削りは½以下。 ロクロ回転は時計まわり。	胎. 密：小砂粒 焼. 普通 色. 灰色 他.
254 5 F67 —	II区 1号溝 坏蓋	口. 11.0 体. 11.2 底. 高.	体部は垂直に立つ。 天井部はやや丸みをもつのであろう。	天井部のヘラ削り不明。 小破片のため径不正確。 体部は横ナデ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰色 他.
255 241 F67 —	II区 1号溝 坏蓋	口. 14.0 体. 13.0 底. 高. 3.5	体部は長く，端部内面は内傾する。 天井部は平坦で，体部との境は小さく突出している。	天井部のヘラ削りは⅔。 ロクロ回転は時計まわり。	胎. 密 焼. 普通 色. 灰色 他.
256 172 F67 P90	VI区 ピット西 坏蓋	口. 15.8 体. 底. 高. 3.8	平坦な天井部に，やや外に開く体部がつく。 端部内面はわずかに段をもつ。 体部と天井部は，にぶいが境がつく。	天井部のヘラ削りは⅔。 天井部内面はナデ仕上げ，他は横ナデ。 ロクロ回転は時計まわり。	胎. 密：砂粒（3㎜大） 焼. 良好 色. 暗灰色 他.

Tab. 26　出土土器観察表(26)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
257 190 F67 —	Ⅳ区 5号溝西南 坏蓋	口. 13.6 体. 底. 高.	体部はやや外に開き端部は丸くおさめる。 体部と天井部とは明瞭な境をなさない。 天井部は平坦となるのであろう。	天井部はヘラ削り。 体部横ナデ調整。 ロクロは時計まわり回転。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰色 他.
258 10 F67 P90	Ⅱ区 坏蓋	口. 11.6 体. 底. 高. 4.3	天井部は球形に近く，そのまま口縁へ続く。 口縁端は丸みをもち，内面でわずかに屈曲している。	天井部のヘラ削り痕は不明瞭。 口縁部は回転横ナデ，天井部内面はナデ調整。 天井部にはヘラ描き記号があるが不鮮明。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰白色 他. 全体に磨耗
259 221 F67 P90	Ⅴ区 坏蓋	口. 体. 底. 高.	259，260は小破片のため坏蓋か坏身か明らかでない。 ヘラ描き記号は，2本の線が見られ，細く浅い。	外面はヘラ削り。 内面は横ナデ調整。	胎. 密：微粒砂 焼. 軟質 色. 外：灰色 内：明灰色 他.
260 4 F67 P90	Ⅲ区 坏蓋	口. 体. 底. 高.	ヘラ描き記号は，3本の平行する線。	内面はナデ仕上げ。	胎. 密 焼. 良好 色. 明茶灰色 他.
261 195 F67 P90	Ⅴ区 坏	口. 体. 底. 7.2 高.	高台は断面蒲鉾形で，体部と底部との境に貼り付けている。	体部・高台部は回転横ナデ。 内底部はナデ仕上げ。 体部への移行は凹凸がめだつ。	胎. 密：砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰色 他.
262 6 F67 —	Ⅲ区 坏	口. 体. 底. 8.0 高.	断面方形の高台はハ字形に貼り付ける。 底部と体部の境は丸みがあり明瞭な境をなさない。	内外面とも回転横ナデ。 表面ざらつく。	胎. 密：小砂粒 焼. 良好 色. 灰色 他.
263 219 F67 P90	Ⅵ区 5号溝 坏	口. 体. 底. 9.2 高.	高台は断面方形で，外端側は上方に小さく突出し，内端側で接地する。 体部は湾曲しながらのびる。 ロクロは時計まわり。	体部は内外面とも回転横ナデ。 内底部はナデ仕上げ。	胎. 密：小砂粒 焼. 普通：やや軟質 色. 灰色 他.
264 173 F67 P90	Ⅳ区 5号溝 坏	口. 13.4 体. 底. 8.7 高. 6.2	器壁は均一でなく凹凸がめだち，口縁部もいびつである。 ロクロ回転は時計まわり。	体部は回転横ナデ。 底部は粗いヘラ削り。	胎. 密：砂粒 焼. 堅緻 色. 灰色 他.
265 103 F67 P90	Ⅶ区 甕	口. 37.6 体. 底. 高.	外に大きく開く口縁部をなす。 口縁下に1条，中位に2条の突帯を巡らす。 口縁端部は断面方形で外傾する。	内外面とも回転横ナデ。 突帯下には櫛歯による波状文を巡らす。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰色 他. 調整丁寧
266 312 F68 —	Ⅶ区 7号溝 甑	口. 体. 底. 高.	甑の把手部である。 把手は断面円形で，わずかに上方に湾曲している。	体部内面は上方向のヘラ削り。 把手はヘラによる整形で体部へ挿入している。	胎. 粗：砂粒多い 焼. 普通 色. 灰茶色 他. 外面に煤付着

Tab. 27　出土土器観察表(27)

番号	遺構 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
267 223 F68 —	Ⅲ区 坏	口. 体. 底. 8.0 高.	土師器の高台付坏である。 高台は平坦な底部にハ字形に貼り付けている。	全体に磨耗し，調整痕不明。 高台部は貼り付け後に横ナデ調整を加える。	胎. 密：精良 焼. 普通：やや軟質 色. 淡黄茶色 他. 全体磨耗
268 226 F68 —	V区 坏	口. 体. 底. 7.8 高.	高台の断面は三角形に近く，ほぼ垂直に貼り付けている。 底部と体部との境は丸みがあり明瞭な境をなさない。	体部内外面と高台部は横ナデ調整。 内底部はナデ仕上げ。	胎. 密：精良 焼. 普通 色. 暗茶褐色 他.
269 232 F68 P91	V区 5号溝 碗	口. 体. 底. 4.4 高.	白磁の底部である。 釉色は灰白色で，高台部は施釉されない。 見込み内底部は輪状に釉が欠き取られている。	体部の釉には貫入は見られないが，見込み内底部には貫入がある。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰白色 他.
270 240 F68 P91	I区 南壁砂上 碗	口. 体. 底. 高.	白磁碗の口縁部小破片。 口縁部は折りかえして，玉縁状をなす。	釉色は灰白色	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰白色 他. 胎土に黒色微粒
271 252 F68 P91	Ⅵ区 皿	口. 11.0 体. 底. 5.6 高. 3.1	白磁の皿で底部はやや上げ底となる。	体部外面はやや凹凸がめだつ。 釉色は灰白色を呈する。 貫入，気泡ともにない。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰白色 他. 貫入，気泡なし
272 231 F68 P91	V区 5号溝 碗	口. 体. 底. 高.	青磁碗の小破片。 口縁端は丸みがあり，外面に鎬蓮文が陽刻されている。	鎬蓮文の陽刻は鋭利でない。 釉色は茶緑色で細かな貫入がある。 胎土は黄白色を呈する。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 茶緑色 他. 細かい貫入，気泡

Tab. 28　出土土器観察表(28)

II　原深町遺跡から出土した木製遺物の樹種同定

九州大学　農学部　林　弘也
松本　勗

原深町遺跡[1]では加工跡が認められる木製遺物37点が出土し，その内訳は農具7点，生活用具11点，建築部材19点であった[2]。出土遺物の形状は「原深町遺跡」[3]に詳細に報告されている。今回，福岡市教育委員会の依頼により，木製遺物37点について樹種同定を行なったので，その結果をとりまとめた。

樹種名は木製遺物からとった木材切片を光学顕微鏡で観察し，樹種名の明らかな標本プレパラートと対照して同定した。検鏡用の切片は，遺物から切り出した1辺が数ミリメートルの立方体ブロックを包埋し，ミクロトームを用いて木材の3断面（横断面，放射断面，接線断面）の切片をこれら包埋ブロックから調製した。切片はプレパラートされ，検鏡試料とした。

遺物のなかには木材の劣化が著しく，詳細な組織が検鏡できなかったり，試料が少ないために十分なデータが得られなかったものもあった。このような遺物ではできるだけ種名に近い名称で表示するように努めたが，属名で表示したものもあった。

同定結果はまとめてtable 1に示し，顕微鏡写真はFig.1 ～Fig.37に示した。同定された樹種は針葉樹材が3樹種，遺物数4点，広葉樹材が15樹種，遺物数33点であり，広葉樹材が多く用いられる傾向を示している。広葉樹材のなかでもカシ材製の遺物は11点もあり，最も多く用いられている。そのほかではクスノキ科の材が5樹種（バリバノキ，クスノキ属，クスノキ，シロダモ，ダンコウバイ）あり，遺物8点に使われていたのが目立った。

1）　所在地：福岡市西区大字原字深町
2）　福岡市教育委員会の判定による。
3）　福岡市埋蔵文化財調査報告書第71集

顕微鏡写真について

1．写真の説明は次のように示されている。

写真番号	整理番号	樹種和名
Fig. 1	Material W 1	カシ

2．写真は左から右に横断面，放射断面，接線断面の順に配列されている。

3．写真の倍率は，横断面および放射断面が30倍，接線断面が72倍である。

Tab. 1　出土木製品一覧表

番号	出土区	遺構	用途	樹種名		法量 (mm)			PL.
				和名	学名	長さ	幅	厚さ	
W 1	V区	大溝	二又鍬	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	473	170	18	1
W 2	V区	大溝	二又鍬	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	286	60	14	1
W 3	II区	1号溝	二又鍬	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	166	86	9	1
W 4	V区	大溝	二又鍬	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	413	50	11	2
W 5	V区	大溝	二又鍬	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	423	68	8	2
W 6	VII区	7号溝	えぶり	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	312	124	18	2
W 7	VI区	大溝	こて	五葉マツ	*Pinus* sp.	415	135	125	3
W 8	V区	大溝	不明	バリバリノキ	*Actinodaphne langifolia*	210	125	45	3
W 9	V区	大溝	手斧柄	マンサク	*Hamamelis* sp.	622	150	28	3
W10	V区	大溝	不明	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	905	27	25	4
W11	V区	4号溝	不明	スギ	*Cryptomeria japonica*	838	65	26	4
W12	V区	大溝	槽?	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	201	76	29	4
W13	V区	大溝	木槌	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	298	90	79	5
W14	V区	大溝	杵	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	339		88	5
W15	V区	大溝	杵	ユズリハ	*Daphniphyllum* sp.	262	77	68	5
W16	V区	大溝	杵	スギ	*Cryptomeria japonica*	1,068	91	72	6
W17	VII区	7号溝	建築部材	ヒノキ属	*Chamaecyparis* sp.	292	33	24	6
W18	V区	大溝	建築部材	クスノキ属	*Cinnamomum* sp.	178	40	36	6
W19	V区	大溝	建築部材	マンサク	*Hamamelis* sp.	277	26	20	7
W20	III区	1号溝	建築部材	チシャノキ	*Ehretia* sp.	507	35	34	7
W21	V区	大溝	建築部材	スダジイ	*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii*	1,132	50		7
W22	V区	大溝	建築部材	ユズリハ	*Daphniphyllum* sp.	1,722	43	38	8
W23	V区	大溝	建築部材	クスノキ	*Cinnamomum camphora*	2,326	72	77	8
W24	IV区	大溝	梯子	シイノキ	*Castanopsis* sp.	845	134	22	8
W25	V区	大溝	建築部材	カシ	*Cyclobalanopsis* sp.	673	105	10	9
W26	V区	大溝	建築部材	フサザクラ	*Euptelea polyandra*	669	87	12	9
W27	V区	大溝	建築部材	サンゴジュ	*Vidurnum awabuki*	324	159	13	9
W28	V区	2号堰	建築部材	サンゴジュ	*Viburnum awabuki*	544	156	10	10
W29	V区	大溝	工作台?	クスノキ	*Cinnamomum camphora*	489	157	106	10
W30	V区	大溝	建築部材	シロダモ	*Neolitsea sericea*	771	255	87	10
W31	V区	2号堰	建築部材	クスノキ	*Cinnamomum camphora*	600	167	19	11
W32	IV区	大溝	臼	クリ	*Castanea crenata*	530	346		11
W33	IV区	大溝	紡錘車	ムクノキ	*Aphanantha* sp.	径 66		17	11
W34	III区	1号溝	杭	ダンコウバイ	*Lindera* sp.	551	138	28	12
W35	III区	1号溝	杭	ダンコウバイ	*Lindera* sp.	584	111	19	12
W36	III区	1号溝	杭(建築部材)	サンゴジュ属	*Viburnum* sp.	544	119	85	12
W37	III区	1号溝	杭(建築部材)	シイノキ	*Castanopsis* sp.	531	121	65	13

(樹種同定結果をもとに力武が作製)

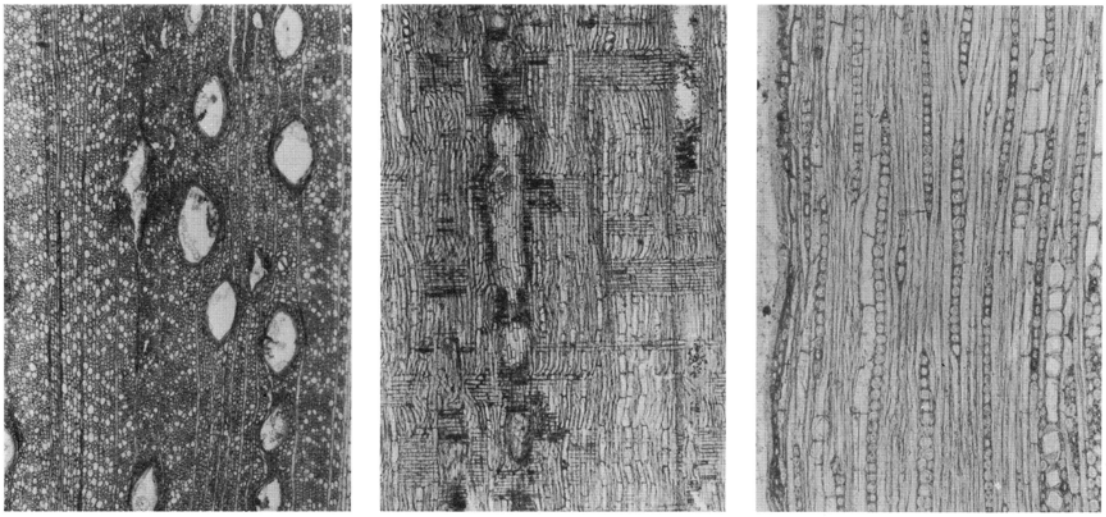

Fig. 1　Material　W 1　　カシ

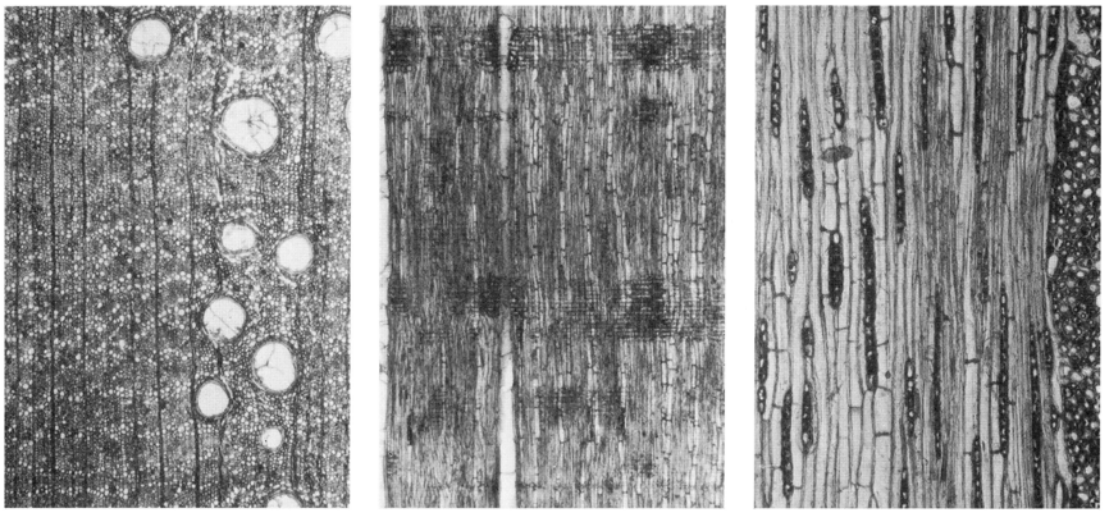

Fig. 2　Material　W 2　　カシ

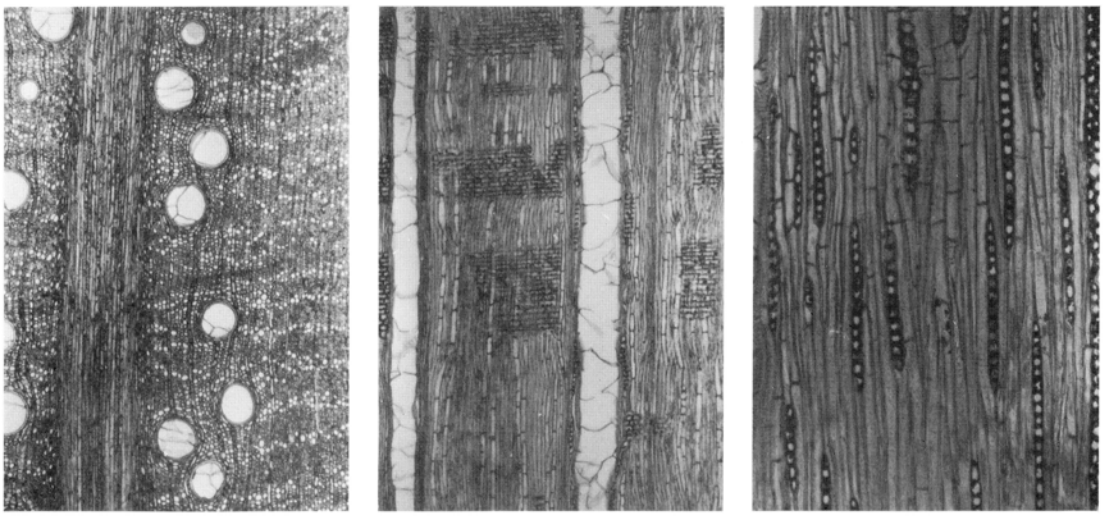

Fig. 3　Material　W 3　　カシ

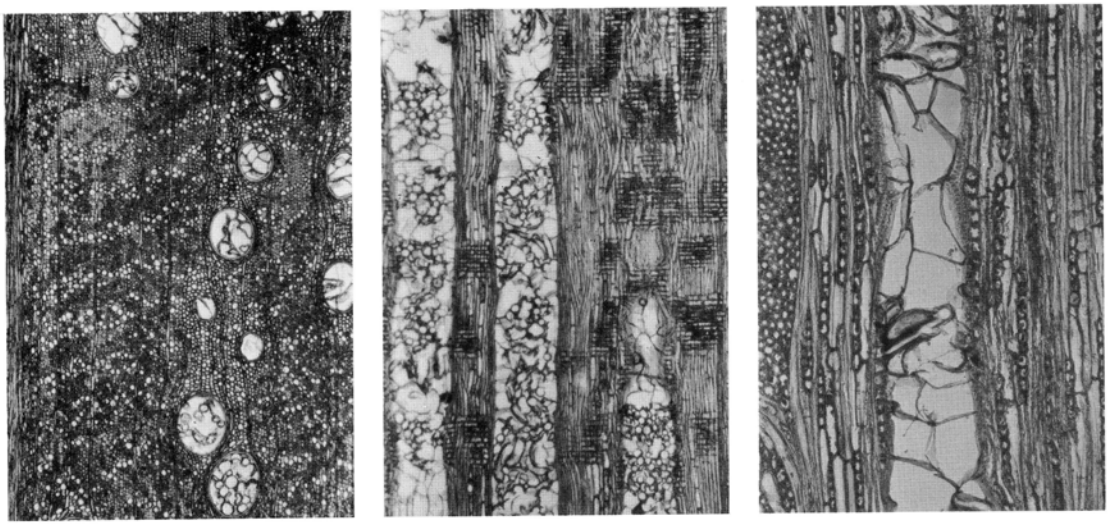

Fig. 4　Material　W 4　　カシ

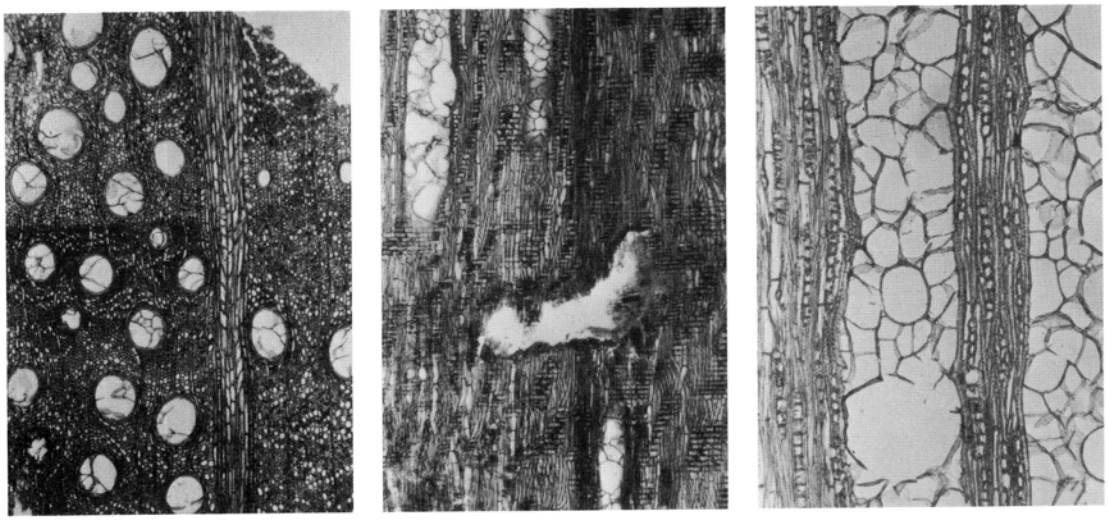

Fig. 5　Material　W 5　　カシ

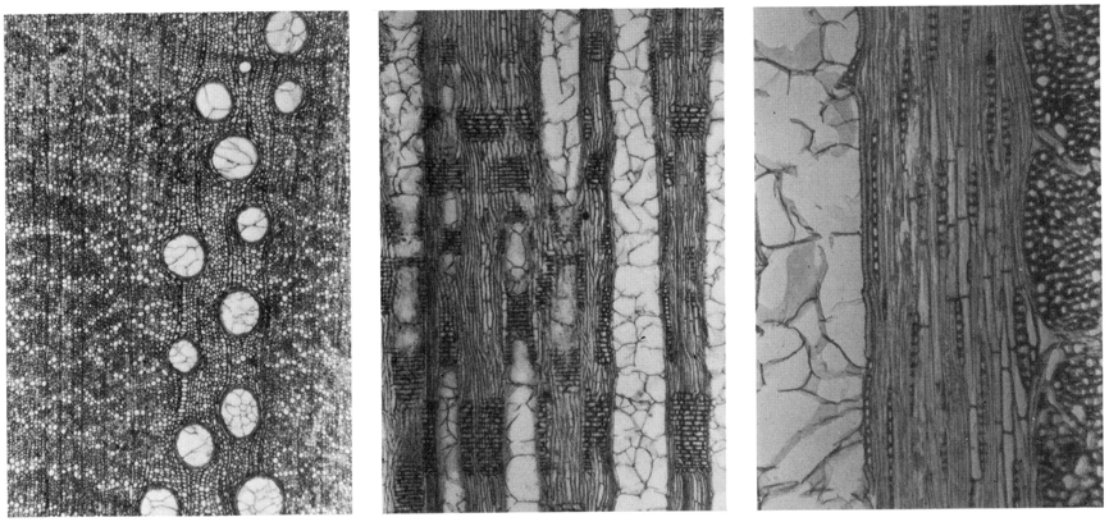

Fig. 6　Material　W 6　　カシ

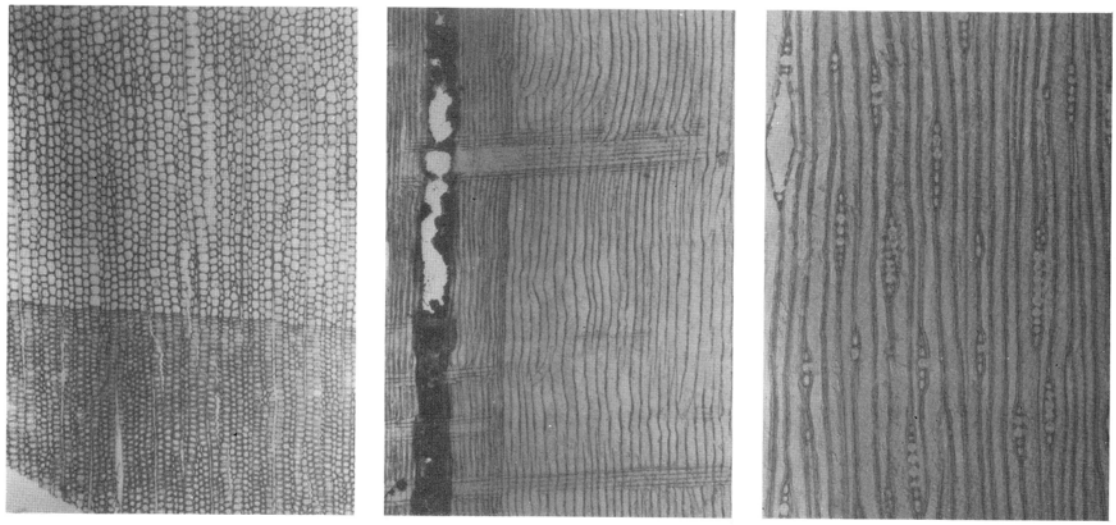

Fig. 7　Material　W 7　　五葉マツ

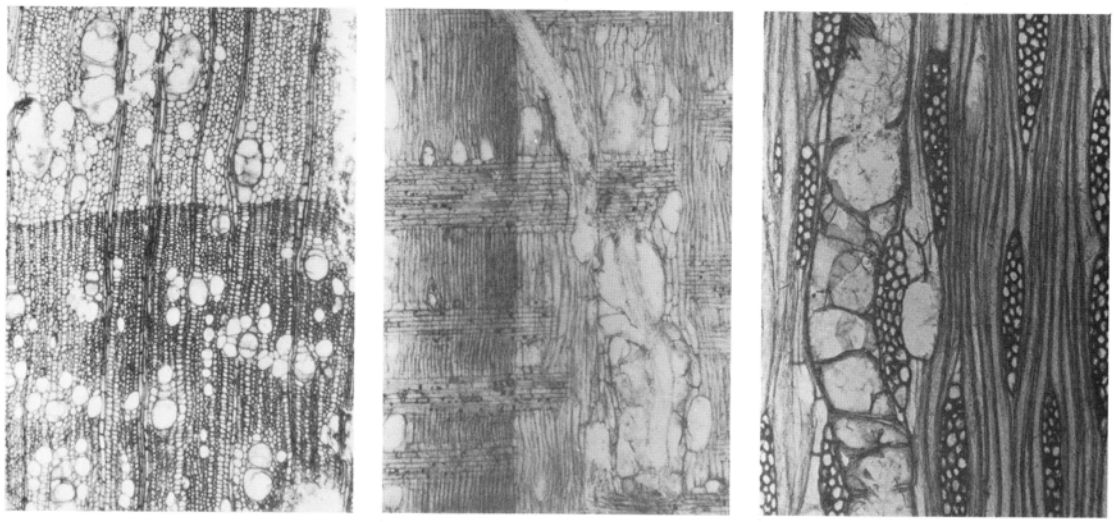

Fig. 8　Material　W 8　　バリバリノキ

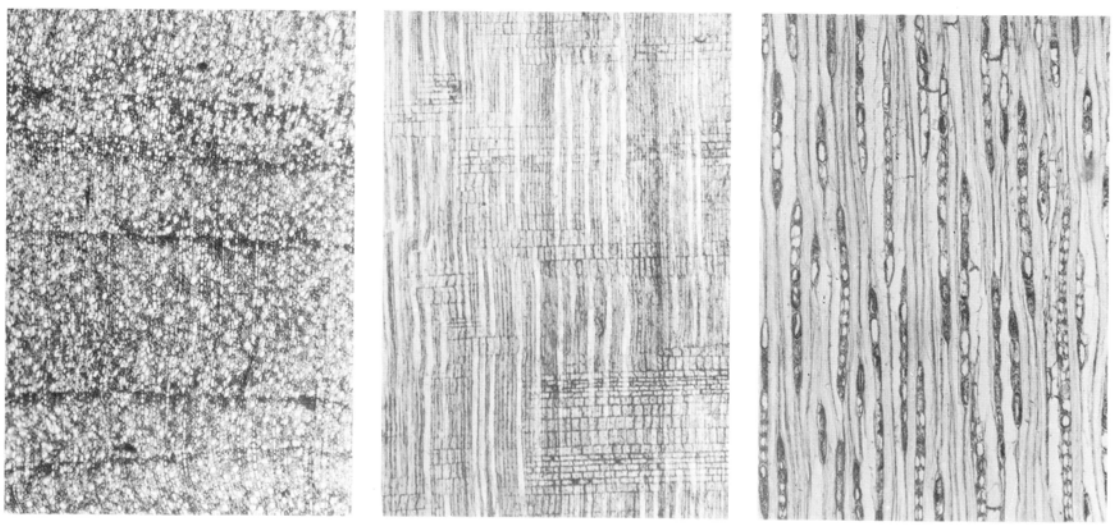

Fig. 9　Material　W 9　　マンサク

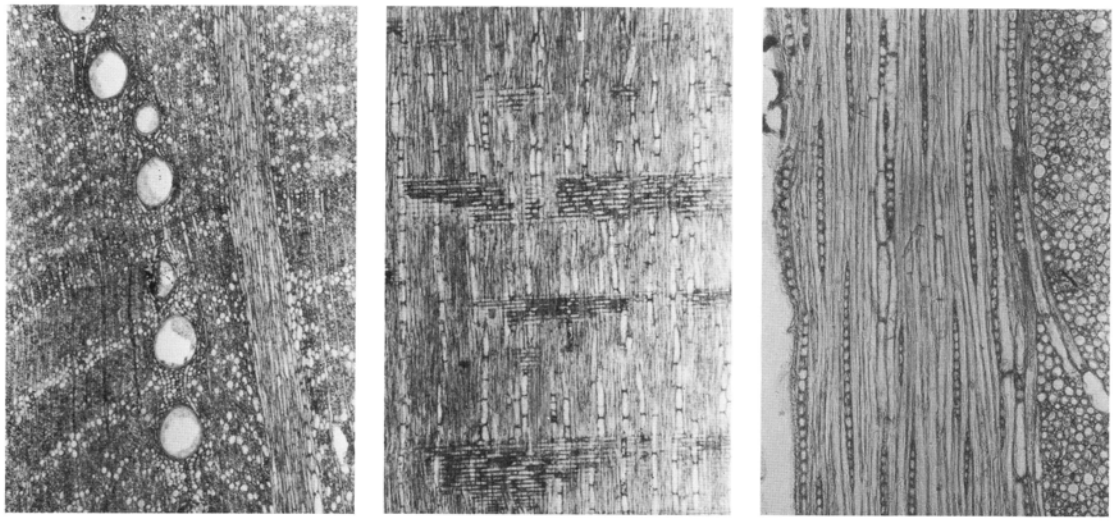

Fig. 10 Material W10 カシ

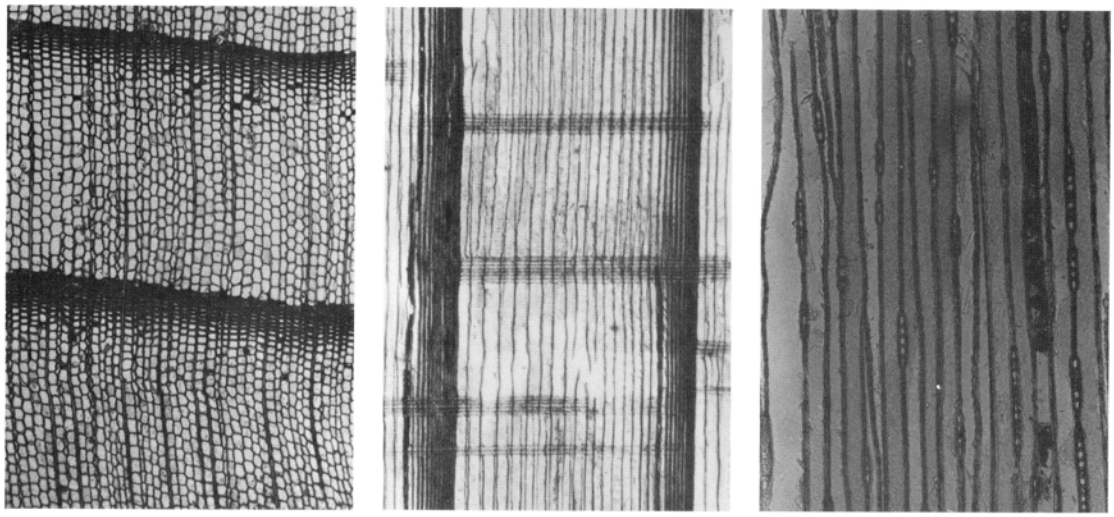

Fig. 11 Material W11 スギ

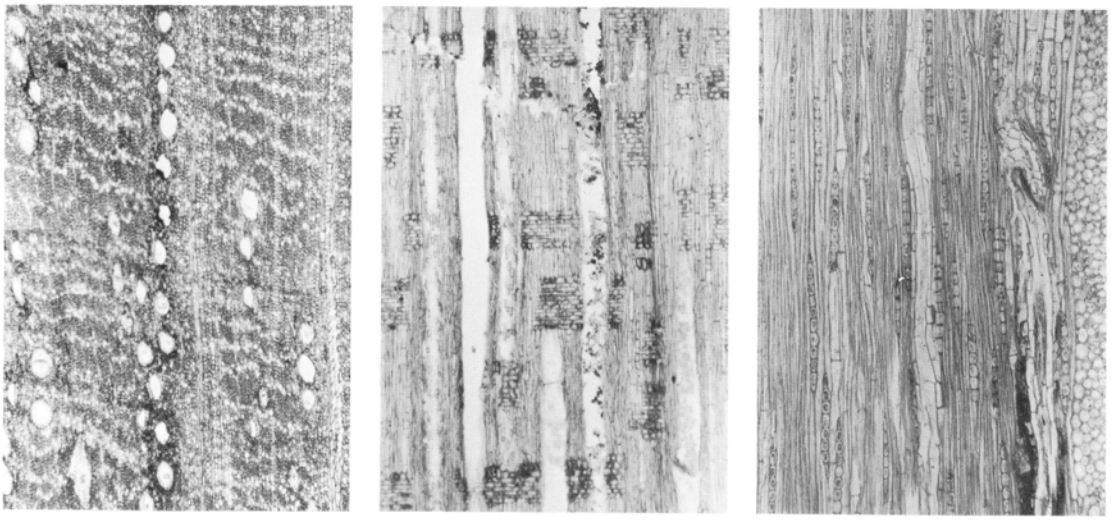

Fig. 12 Material W12 カシ

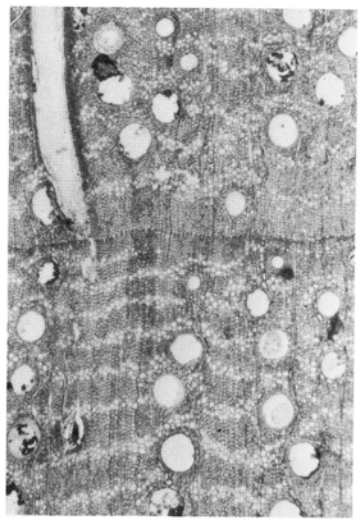
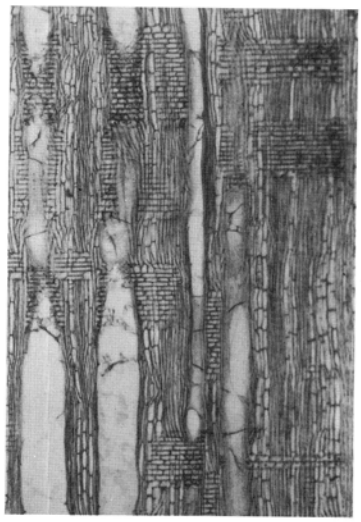
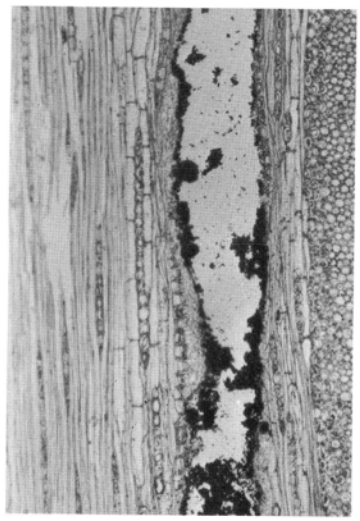

Fig. 13 Material W13 カシ

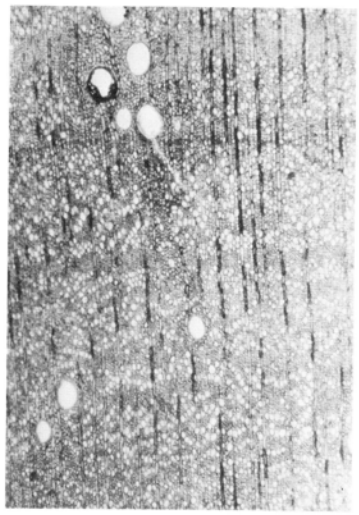
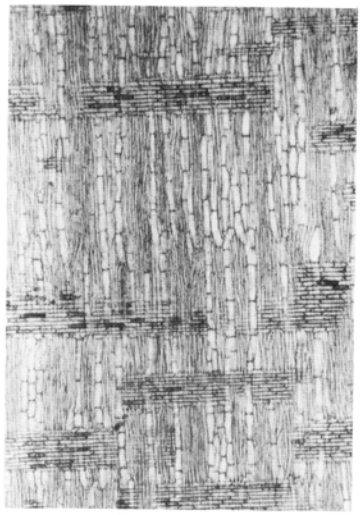
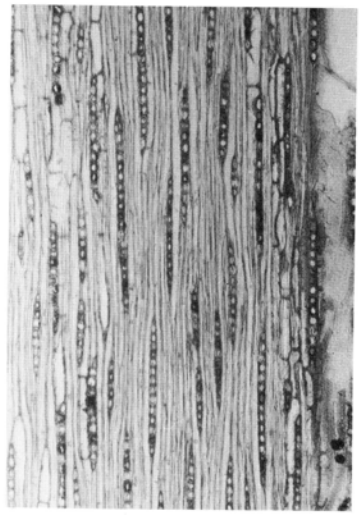

Fig. 14 Material W14 カシ

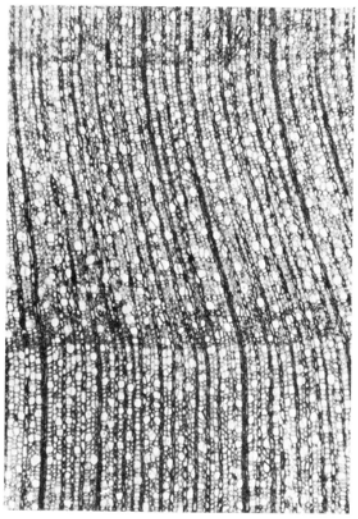
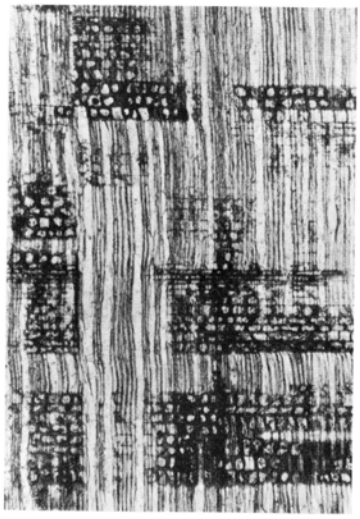
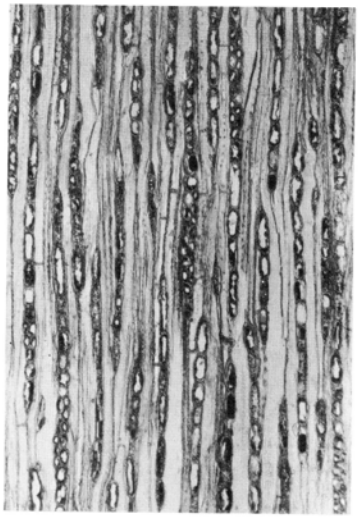

Fig. 15 Material W15 ユズリハ

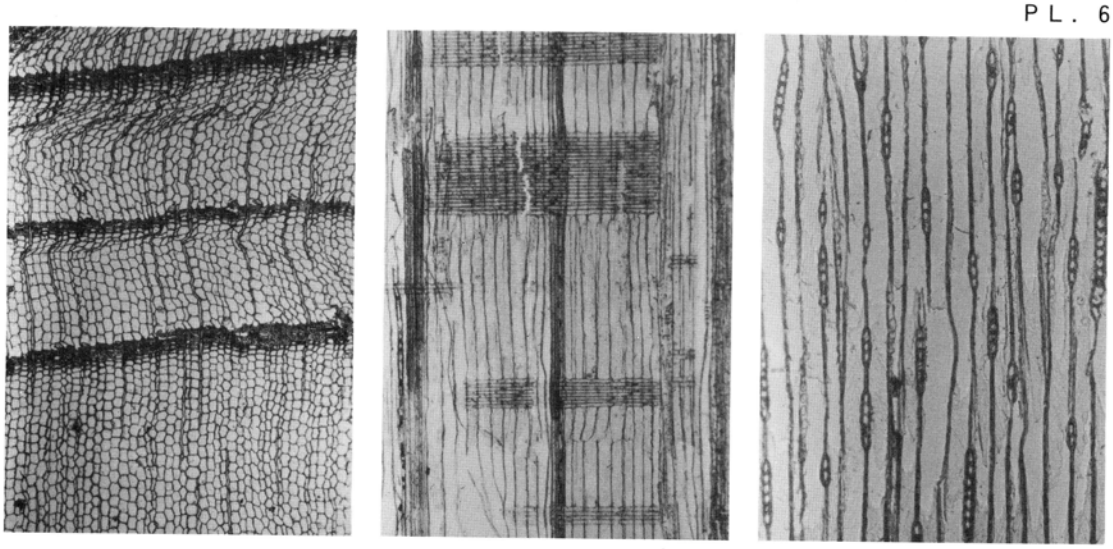

Fig. 16 Material W16 スギ

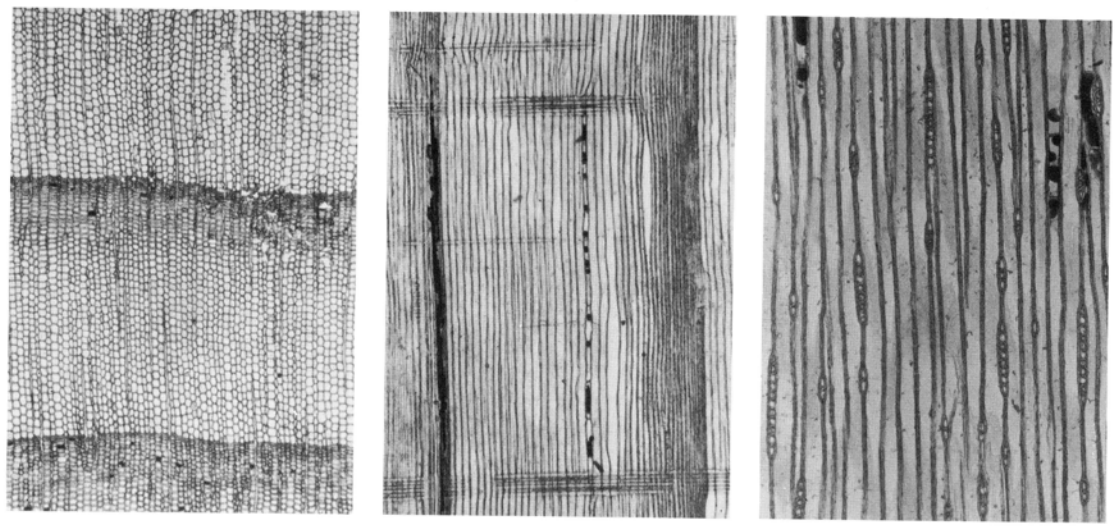

Fig. 17 Material W17 ヒノキ属

Fig. 18 Material W18 クスノキ属

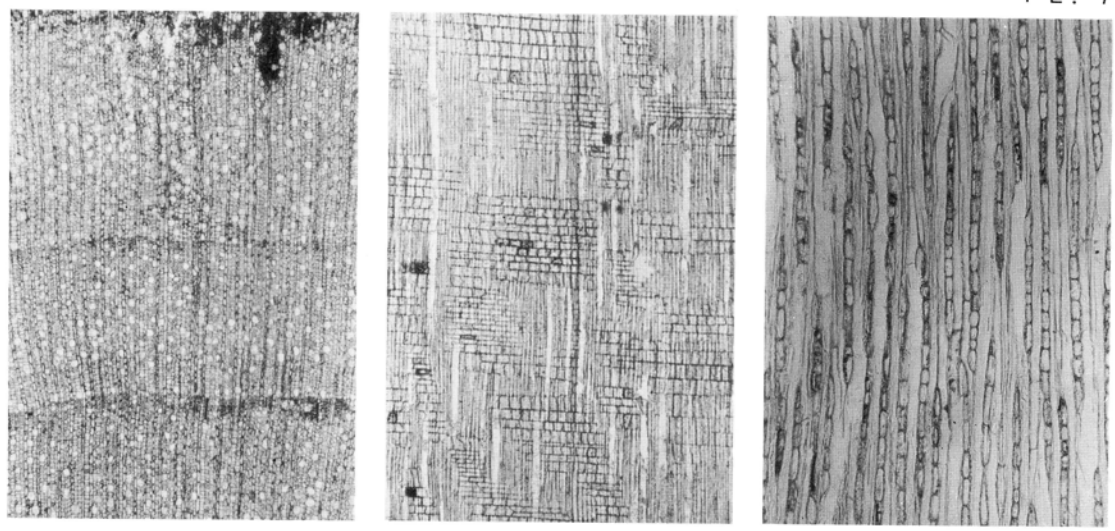

Fig. 19 Material W19 マンサク

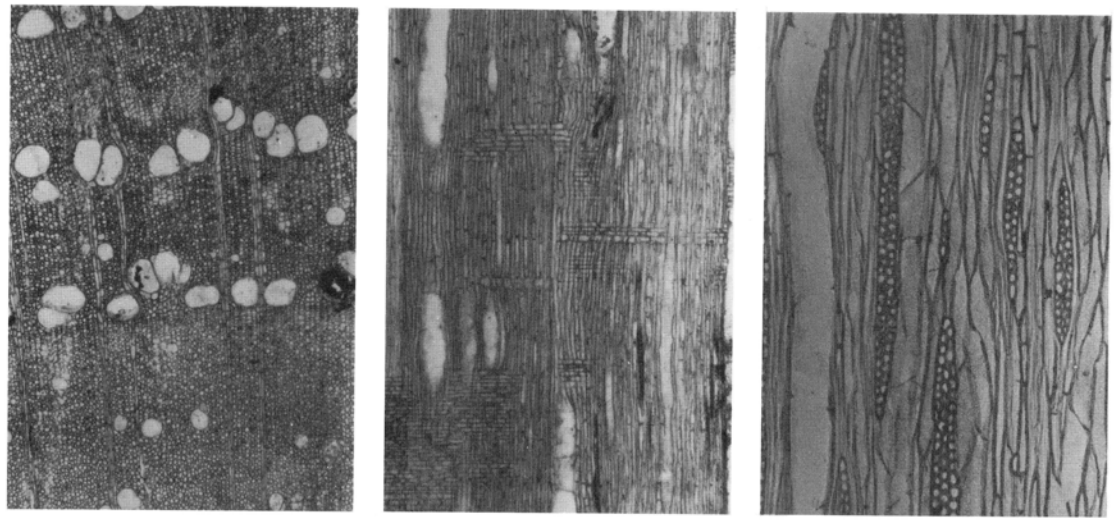

Fig. 20 Material W20 チシャノキ

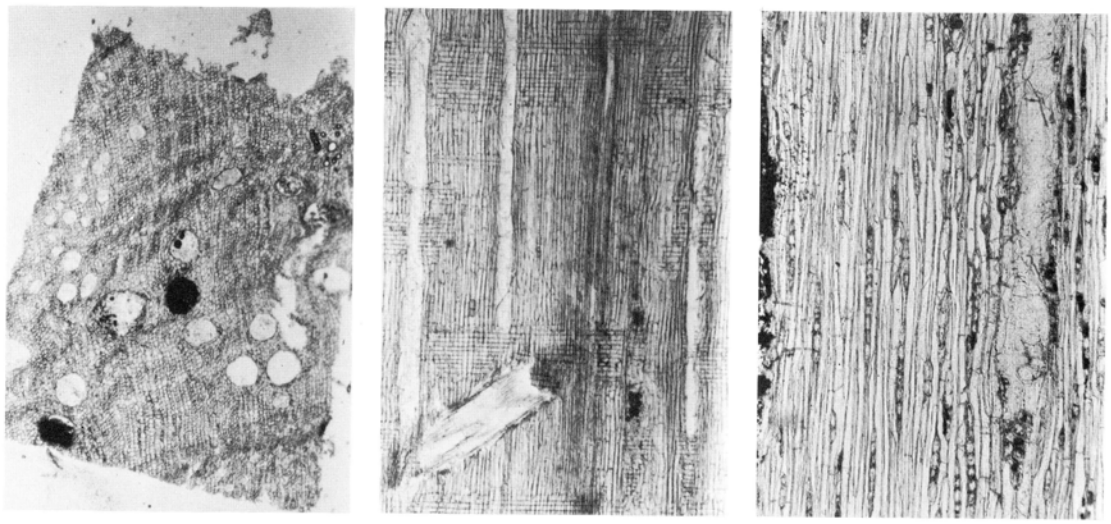

Fig. 21 Material W21 スダジイ

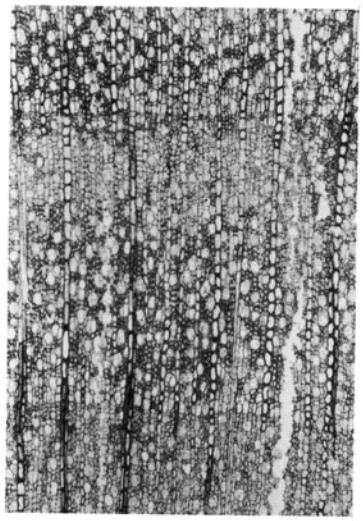
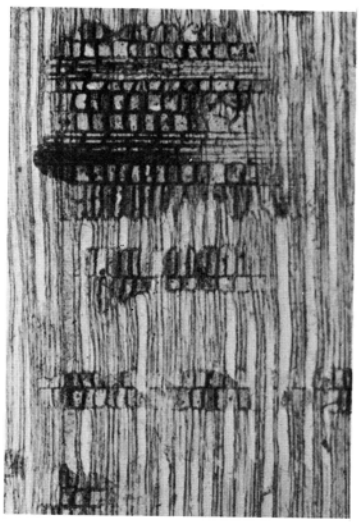
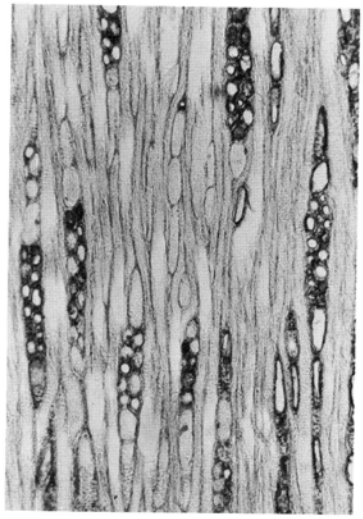

Fig. 22 Material W22 ユズリハ

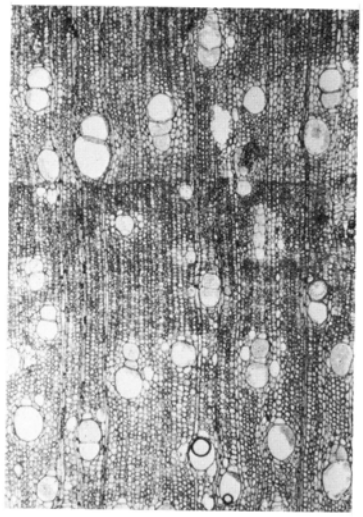
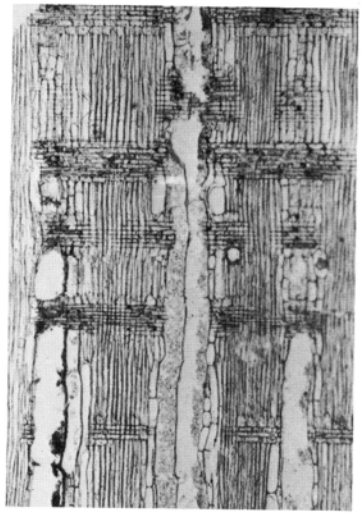
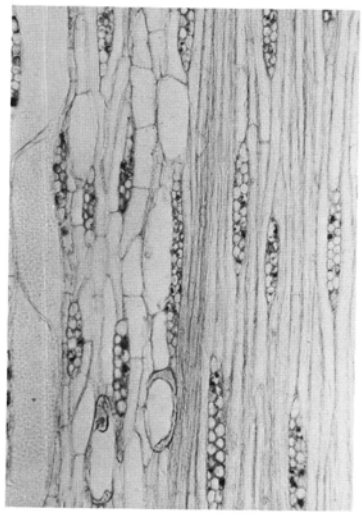

Fig. 23 Material W23 クスノキ

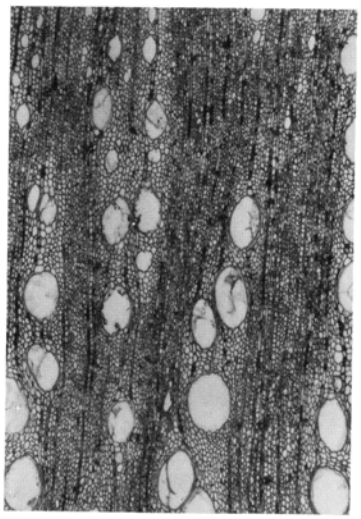
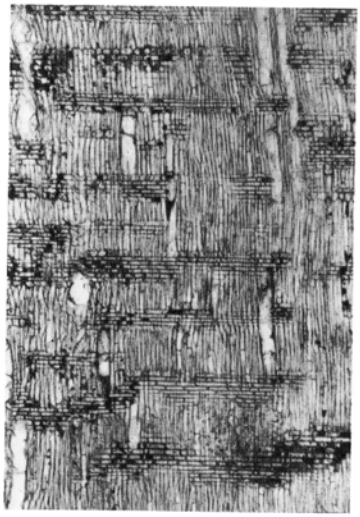
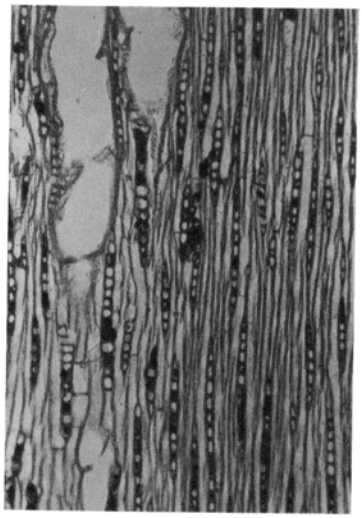

Fig. 24 Material W24 シイノキ

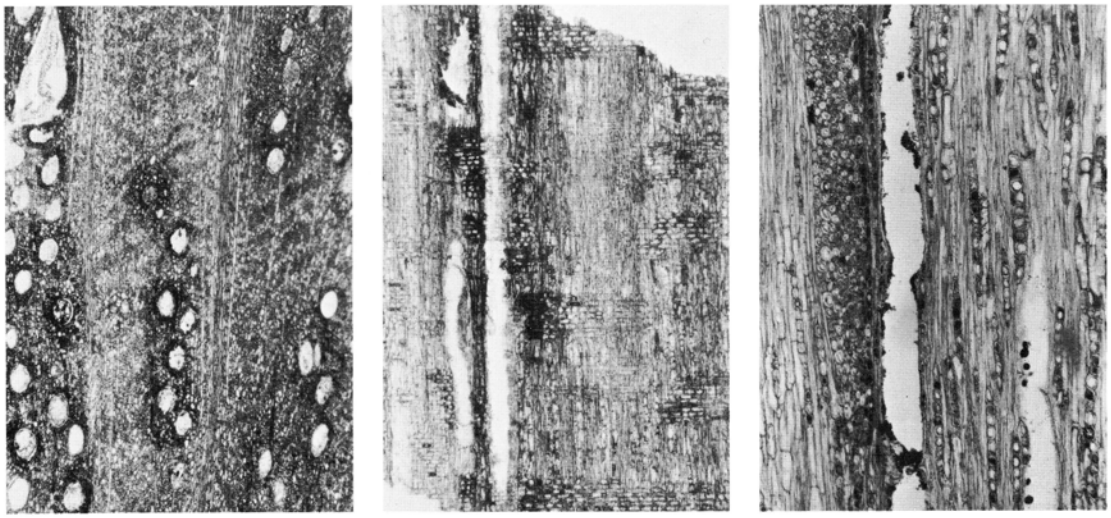

Fig. 25　Material　W25　　カシ

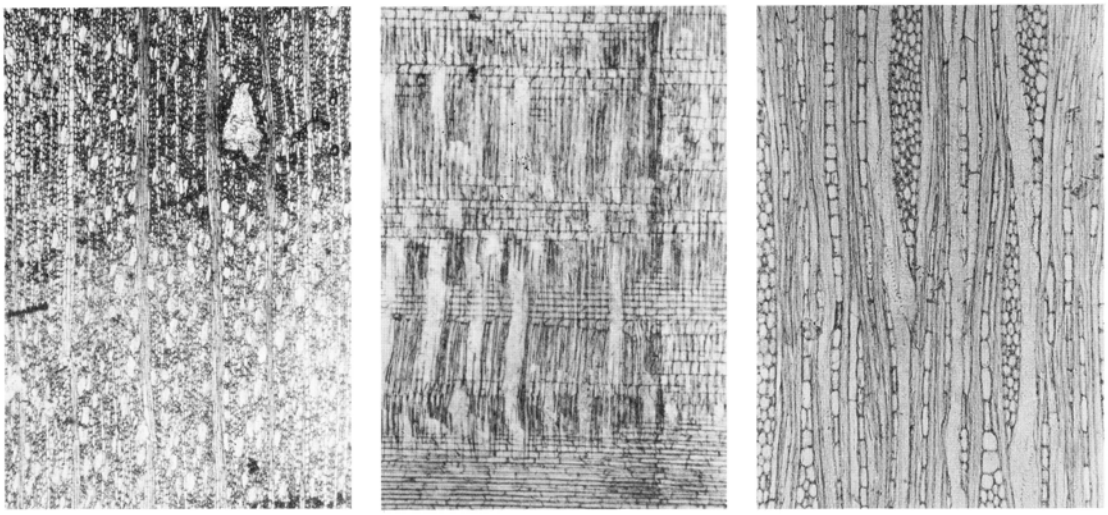

Fig. 26　Material　W26　　フサザクラ

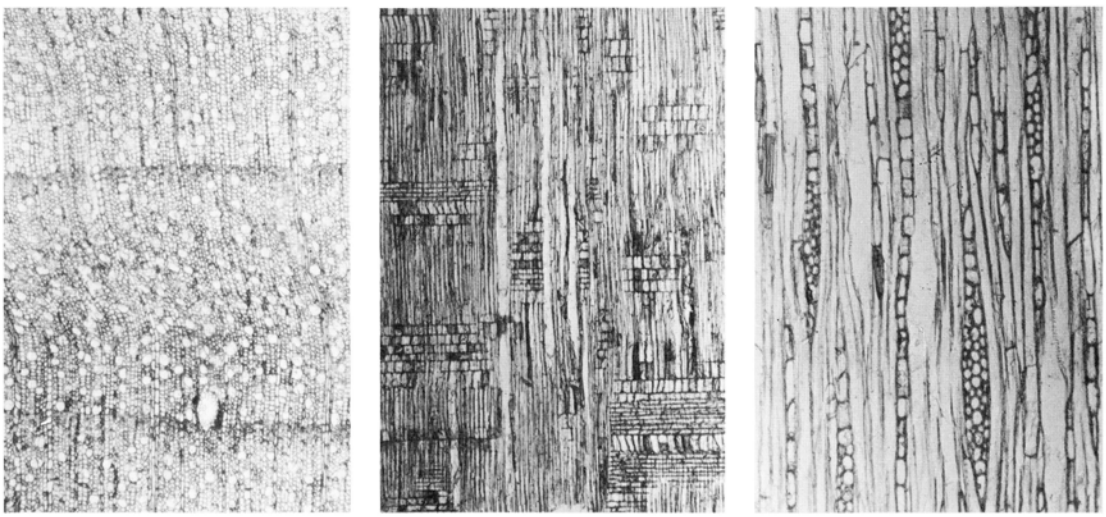

Fig. 27　Material　W27　　サンゴジュ

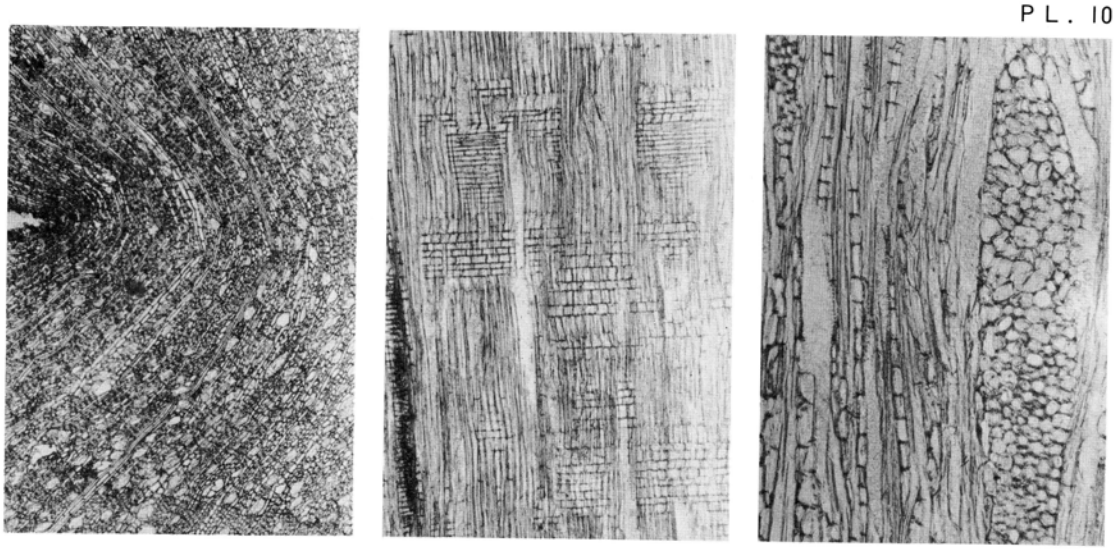

Fig. 28 Material W28 サンゴジュ

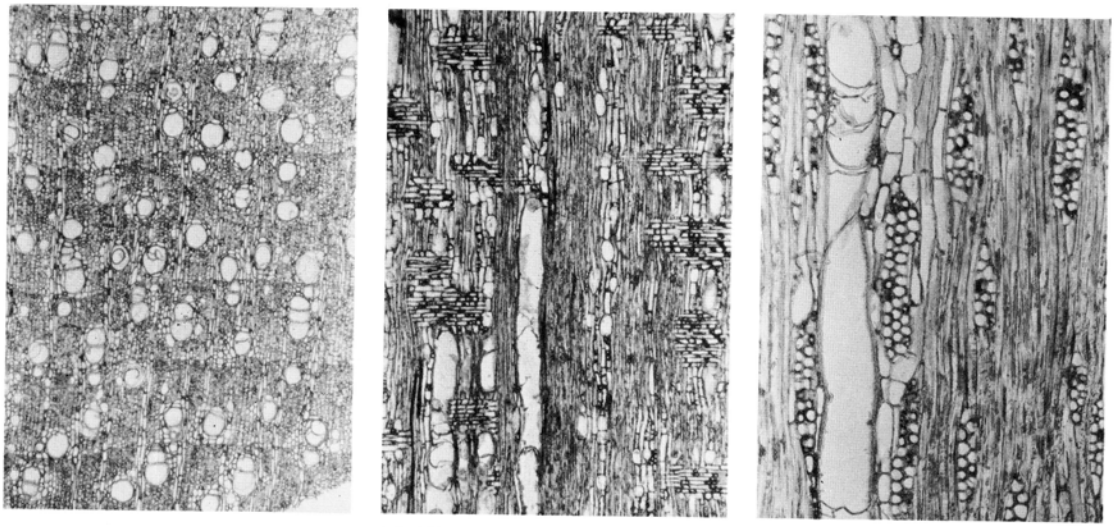

Fig. 29 Material W29 クスノキ

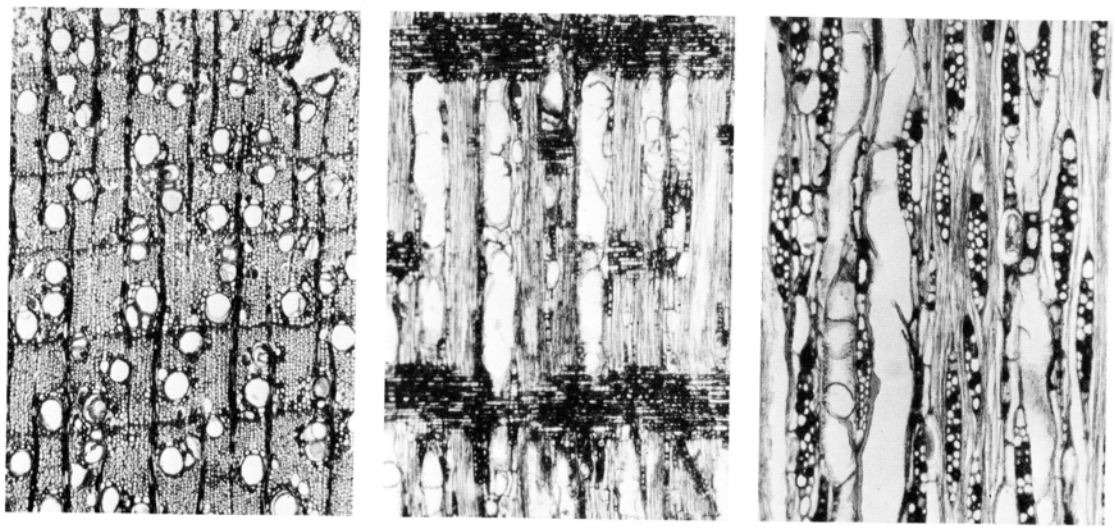

Fig. 30 Material W30 シロダモ

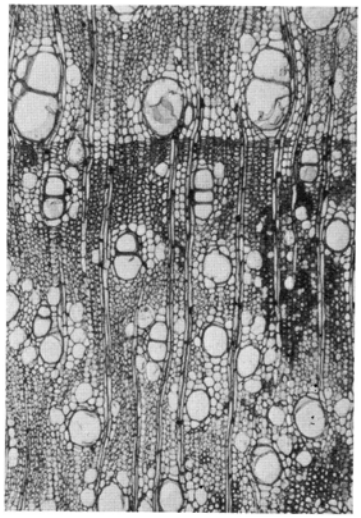
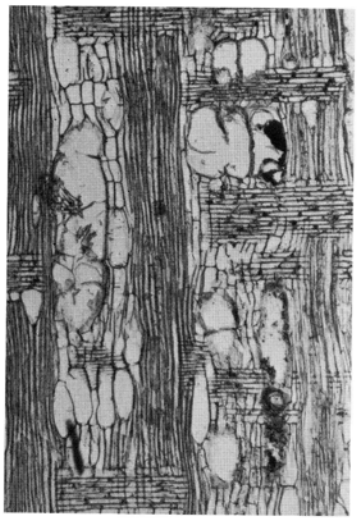
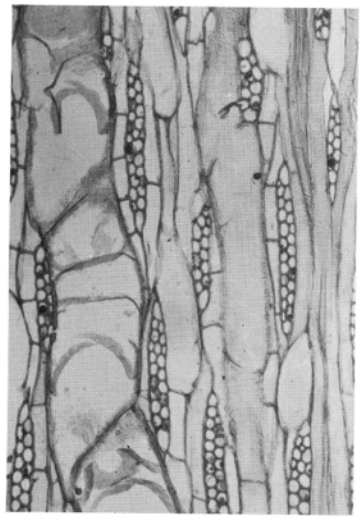

Fig. 31 Material W31 クスノキ

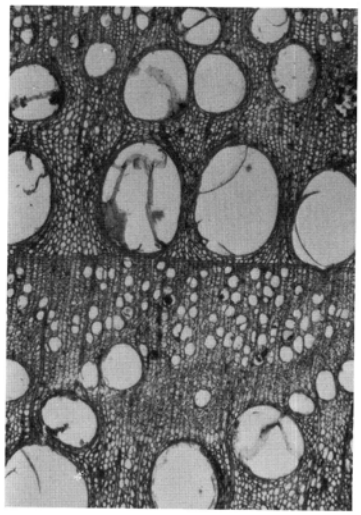
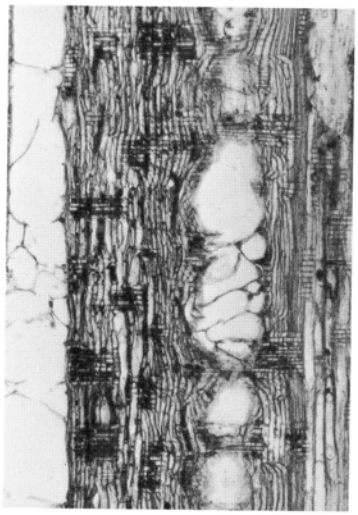
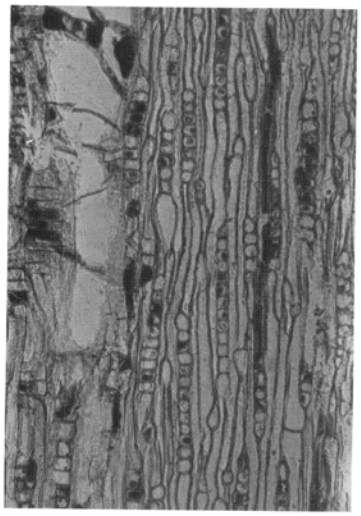

Fig. 32 Material W32 クリ

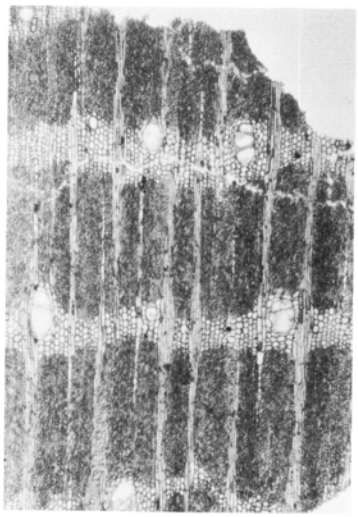
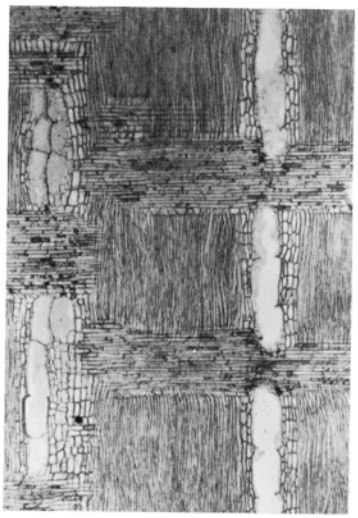
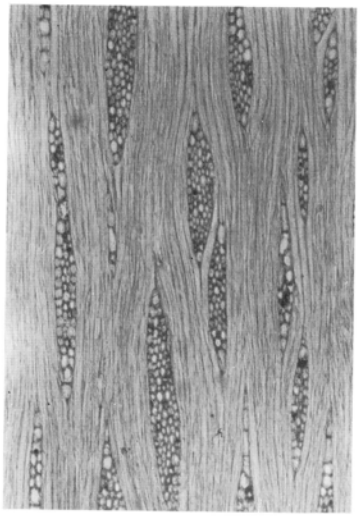

Fig. 33 Material W33 ムクノキ

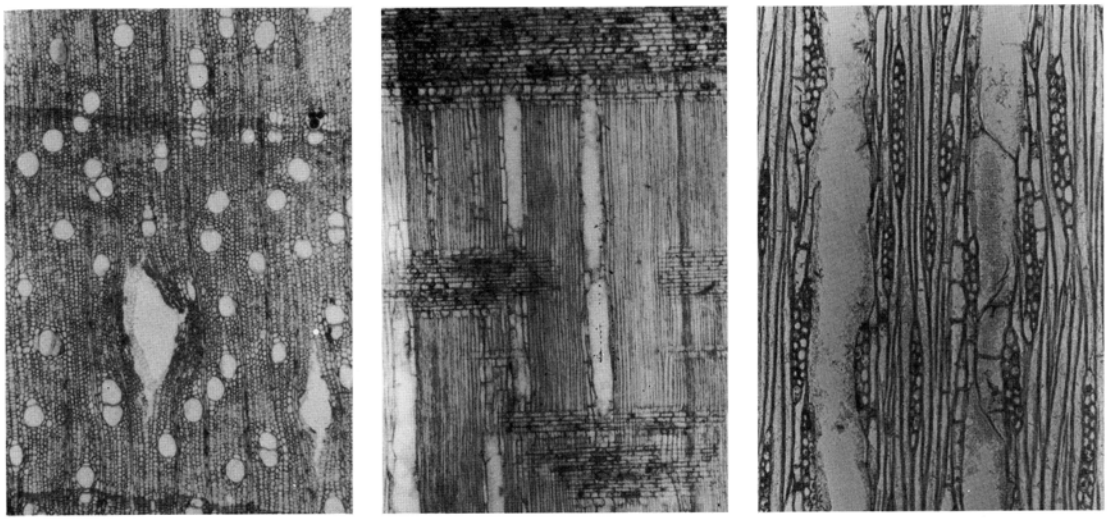

Fig. 34 Material W34 ダンコウバイ

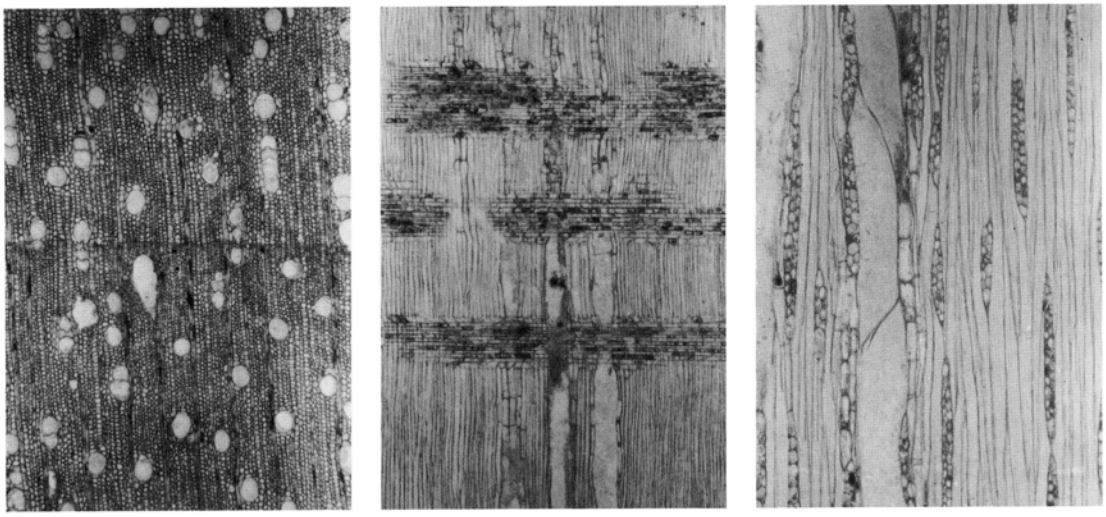

Fig. 35 Material W35 ダンコウバイ

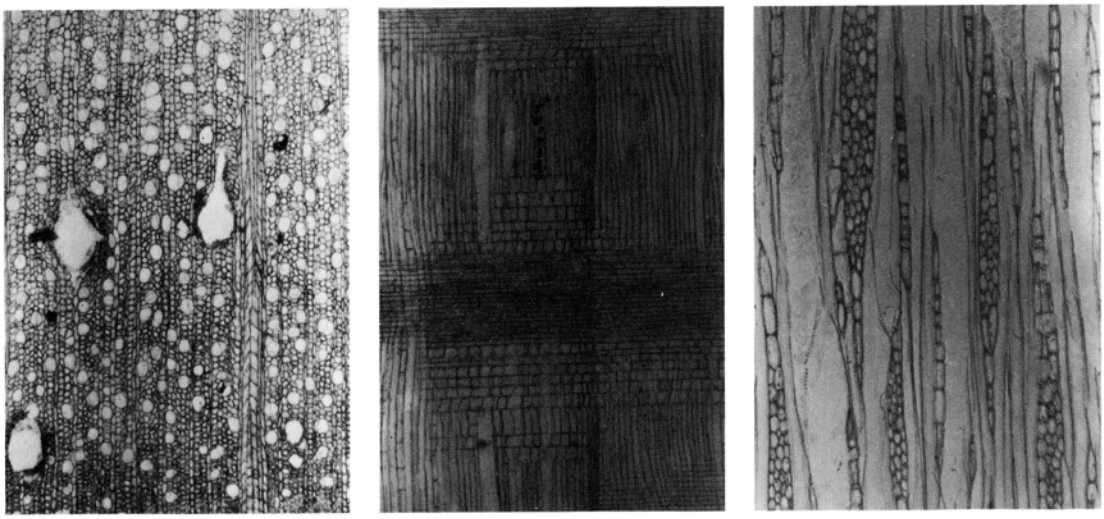

Fig. 36 Material W36 サンゴジュ属

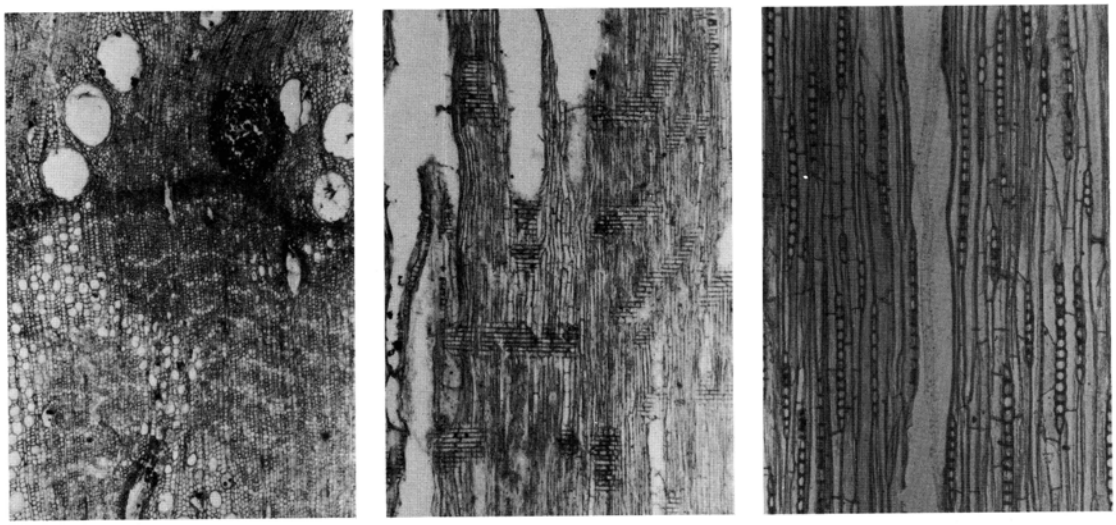

Fig. 37　Material　W37　　シイノキ

福岡市西区

原深町遺跡

（別冊）

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第71集

©1982年３月31日発行

編集　福岡市教育委員会

発行　福岡市中央区天神一丁目７－23
電話　（福岡）711－4667（文化課）

印刷　㈱チューエツ福岡工場
福岡市博多区東比恵２丁目９番１号
電話　（福岡）411－8367（代表）

福岡市西区

原深町遺跡

福岡市埋蔵文化財調査報告書第71集

1982

福岡市教育委員会